

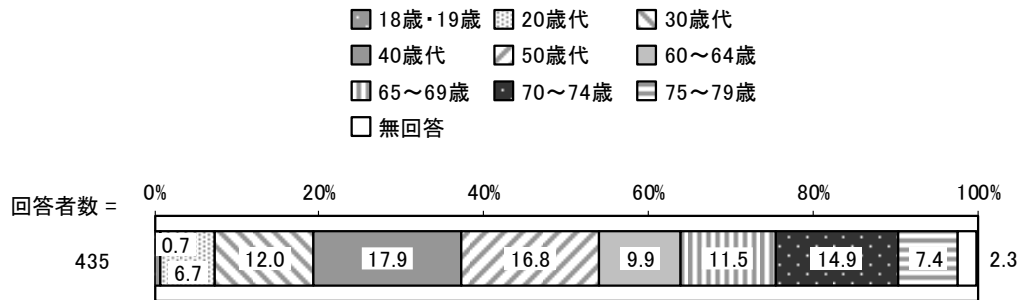
# 吉田町地域福祉に関するアンケート調査結果

## 1 町民調査

### (1) 回答者属性

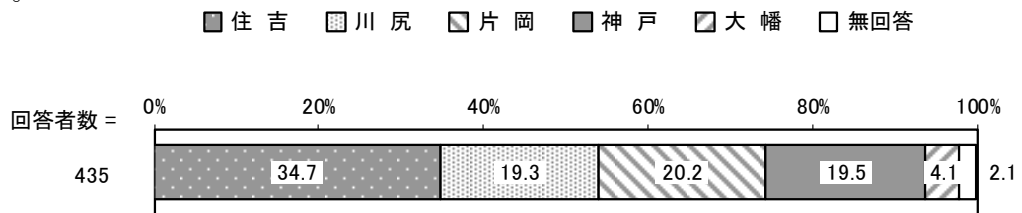
問 年齢はおいくつですか。(令和3年11月1日現在) 【〇は1つだけ】

「40歳代」の割合が17.9%と最も高く、次いで「50歳代」の割合が16.8%、「70～74歳」の割合が14.9%となっています。



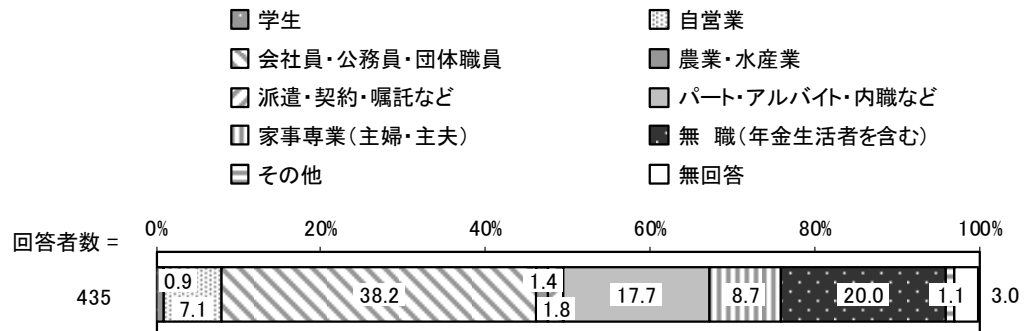
問 現在、お住まいの地域はどこですか。【〇は1つだけ】

「住吉」の割合が34.7%と最も高く、次いで「片岡」の割合が20.2%、「神戸」の割合が19.5%となっています。



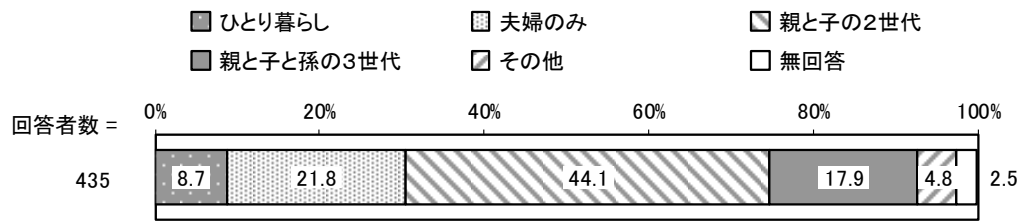
問 ご職業はどれですか。【〇は1つだけ】

「会社員・公務員・団体職員」の割合が38.2%と最も高く、次いで「無職(年金生活者を含む)」の割合が20.0%、「パート・アルバイト・内職など」の割合が17.7%となっています。



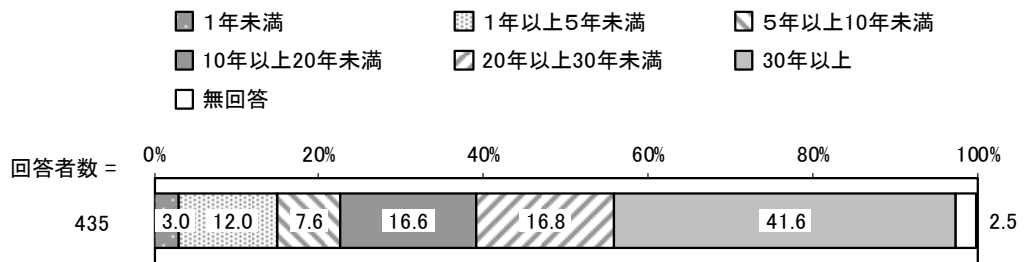
**問 あなたの世帯の家族構成はどれですか。【○は1つだけ】**

「親と子の2世代」の割合が44.1%と最も高く、次いで「夫婦のみ」の割合が21.8%、「親と子と孫の3世代」の割合が17.9%となっています。



**問 現在のお住まいには、何年住んでいますか。【○は1つだけ】**

「30年以上」の割合が41.6%と最も高く、次いで「20年以上30年未満」の割合が16.8%、「10年以上20年未満」の割合が16.6%となっています。

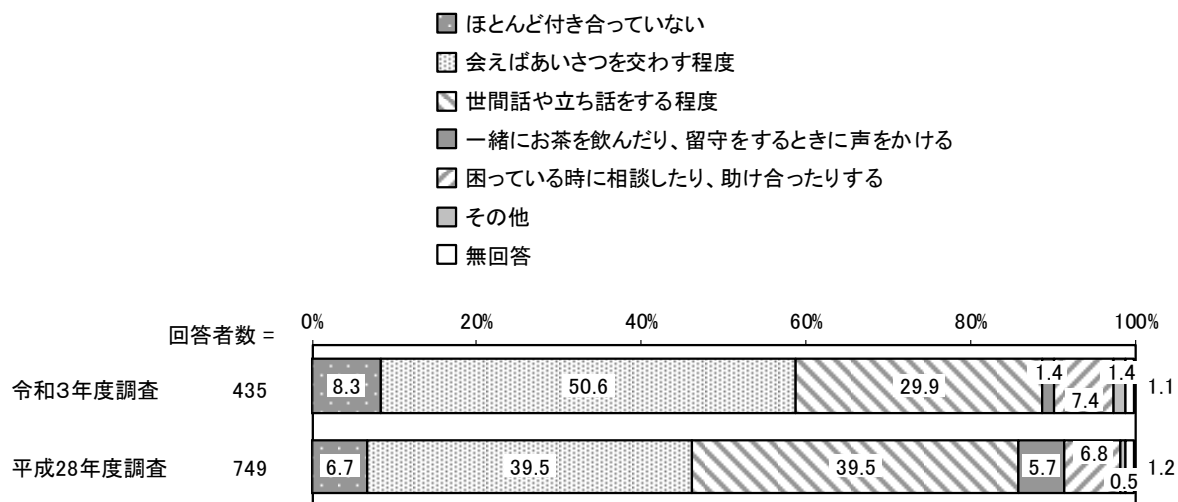


## (2) 地域や近所との関わりについて

### 問1 普段、近所の人とどの程度のお付き合いをしていますか。【〇は1つだけ】

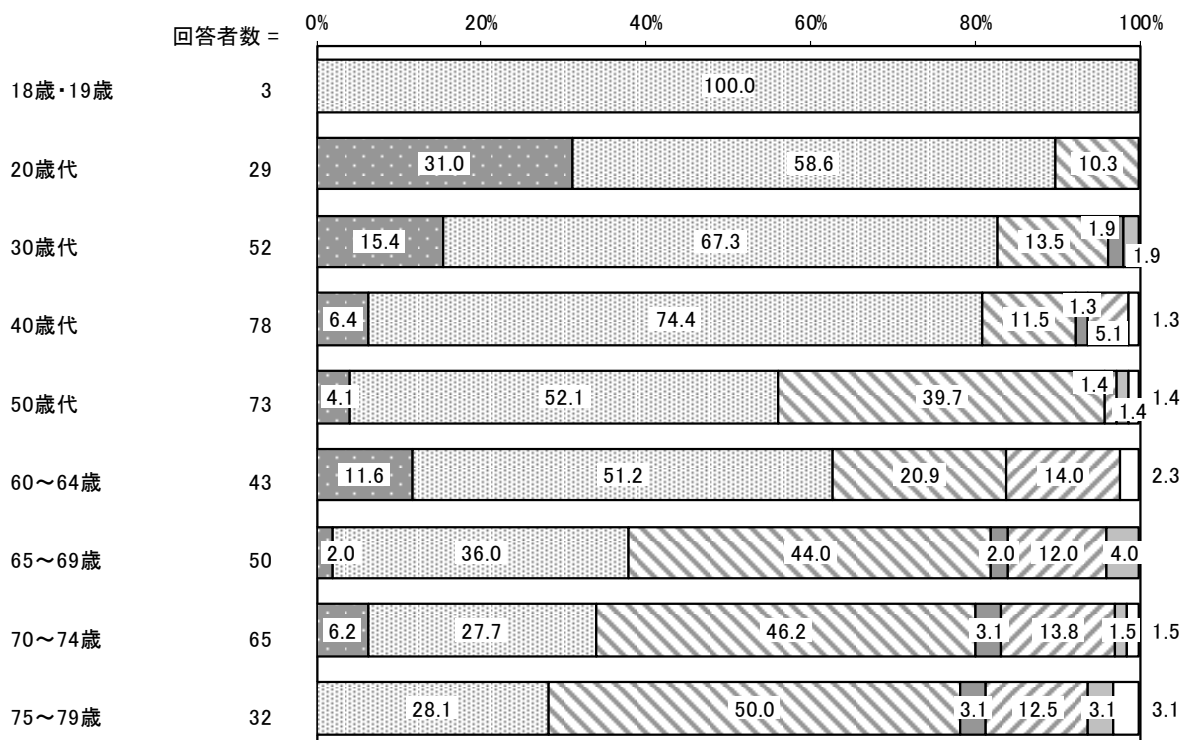
「会えばあいさつを交わす程度」の割合が50.6%と最も高く、次いで「世間話や立ち話をする程度」の割合が29.9%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「会えばあいさつを交わす程度」の割合が増加しています。



### 【年代別】

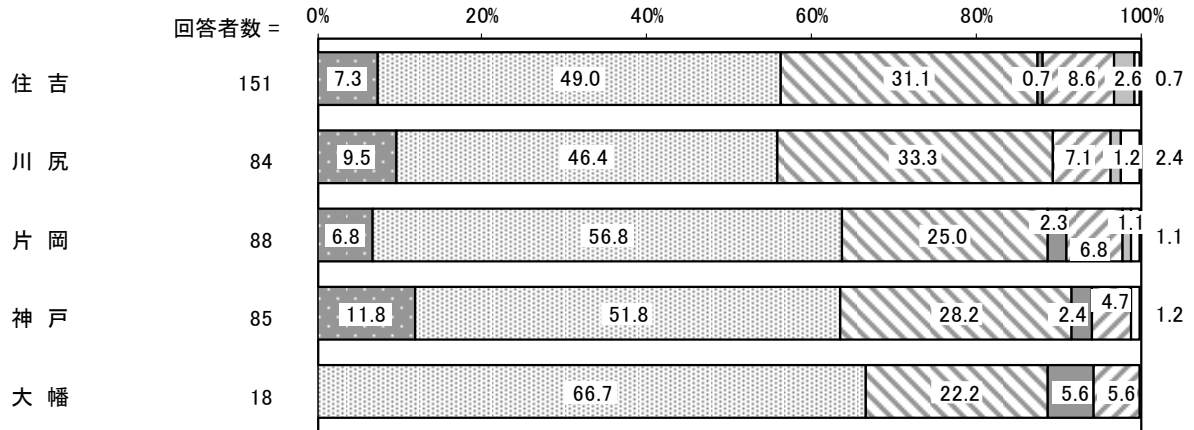
年代別でみると、他に比べ、20歳代で「ほとんど付き合っていない」の割合が高くなっています。また、40歳代で「会えばあいさつを交わす程度」の割合が高くなっています。



【地区別】

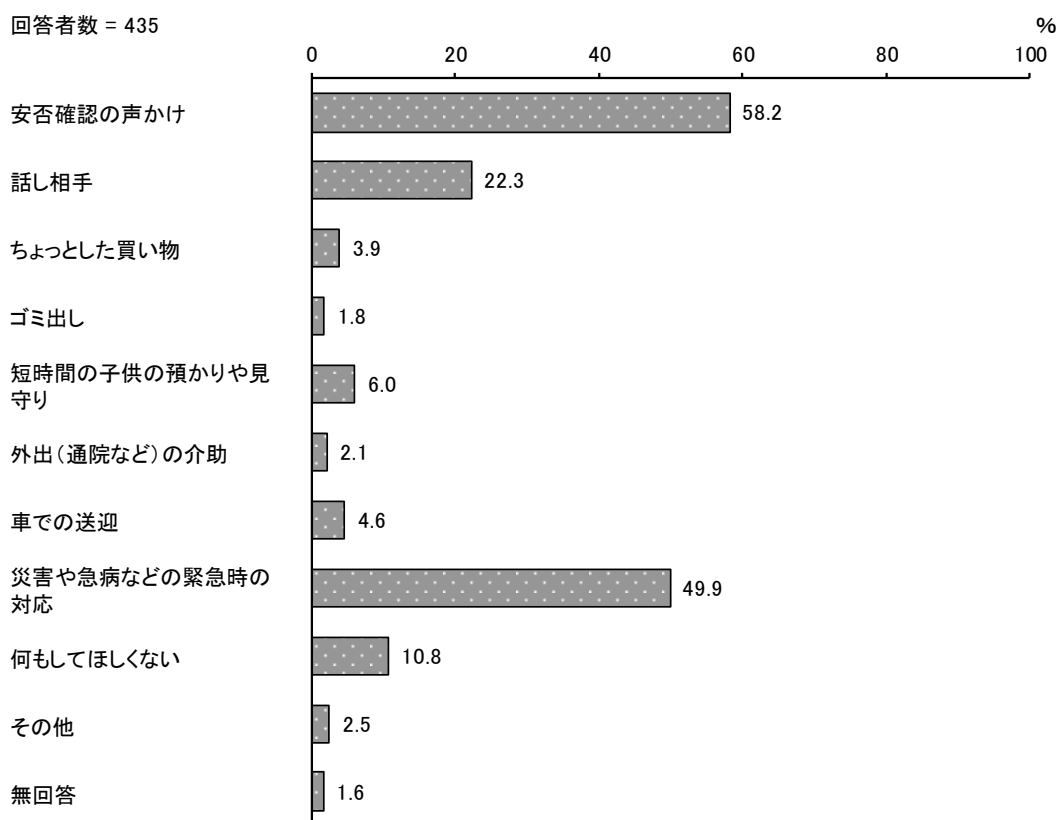
地区別でみると、他に比べ、大幡で「会えばあいさつを交わす程度」の割合が高くなっています。

- ほとんど付き合っていない
- ▨ 会えばあいさつを交わす程度
- ▧ 世間話や立ち話をする程度
- 一緒にお茶を飲んだり、留守をするときに声をかける
- ▩ 困っている時に相談したり、助け合ったりする
- その他
- 無回答



**問2 あなたが困っている時、近所の人にどのようなことをしてほしいですか。**  
【〇は3つまで】

「安否確認の声かけ」の割合が58.2%と最も高く、次いで「災害や急病などの緊急時の対応」の割合が49.9%、「話し相手」の割合が22.3%となっています。



**【年代別】**

年代別でみると、他に比べ、20歳代で「何もしてほしくない」の割合が高くなっています。また、60～64歳で「話し相手」の割合が高くなっています。

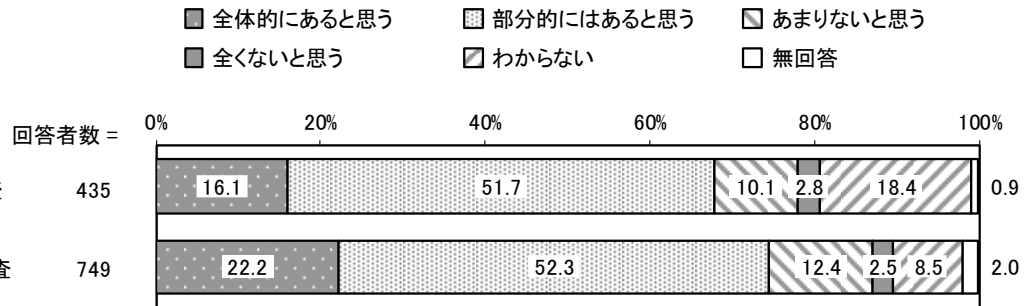
単位：%

区分	回答者数(件)	安否確認の声かけ	話し相手	ちょっとした買い物	ゴミ出し	短時間の子供の預かりや見守り	外出(通院など)の介助	車での送迎	災害や急病などの緊急時の対応	何もしてほしくない	その他	無回答
18歳・19歳	3	66.7	33.3	—	—	—	—	—	66.7	—	—	—
20歳代	29	55.2	10.3	—	6.9	3.4	—	3.4	41.4	24.1	—	—
30歳代	52	57.7	21.2	—	—	11.5	—	—	50.0	11.5	—	1.9
40歳代	78	50.0	15.4	1.3	1.3	15.4	—	2.6	47.4	19.2	—	2.6
50歳代	73	63.0	17.8	6.8	—	2.7	1.4	8.2	53.4	8.2	2.7	1.4
60～64歳	43	67.4	32.6	7.0	2.3	2.3	—	4.7	46.5	9.3	2.3	—
65～69歳	50	54.0	22.0	4.0	4.0	2.0	6.0	6.0	54.0	8.0	10.0	—
70～74歳	65	61.5	29.2	6.2	1.5	—	1.5	4.6	52.3	6.2	3.1	—
75～79歳	32	62.5	31.3	6.3	3.1	3.1	12.5	6.3	50.0	—	3.1	6.3

**問3 お住まいの地域には、困っている場合に助け合う意識があると思いますか。【〇は1つだけ】**

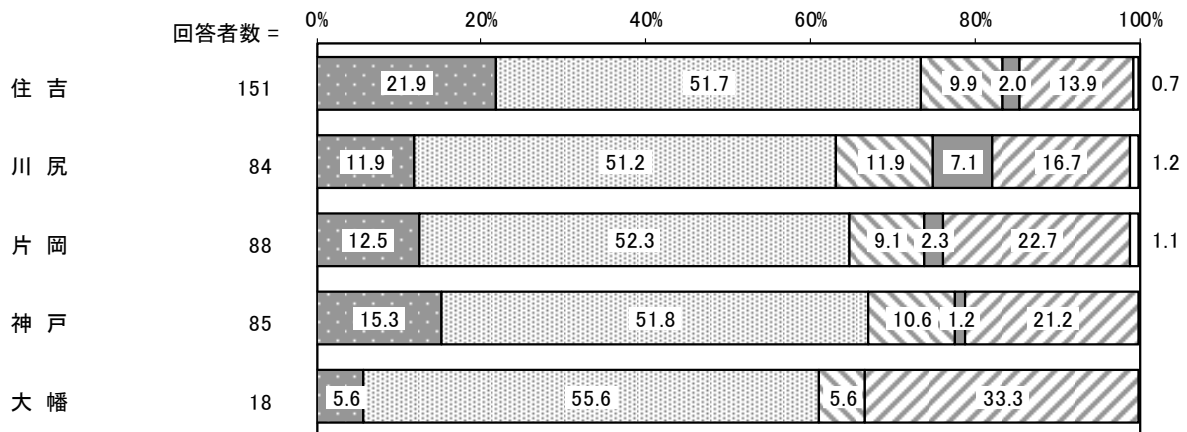
「全体的にあると思う」と「部分的にはあると思う」を合わせた“あると思う”の割合が67.8%と最も高く、次いで、「わからない」の割合が18.4%、「あまりないと思う」と「全くないと思う」を合わせた“ないと思う”の割合が12.9%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「全体的にあると思う」の割合が減少しています。



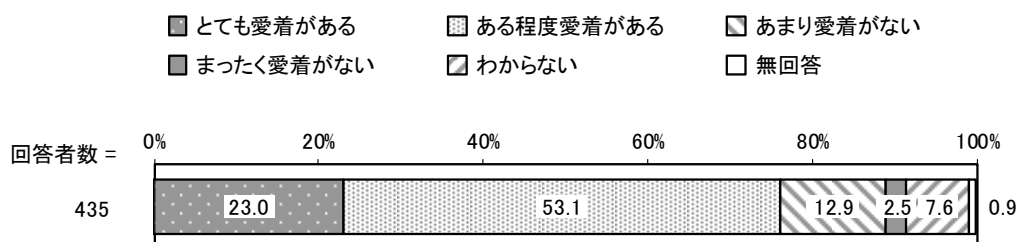
**【地区別】**

地区別でみると、他に比べ、住吉で“あると思う”の割合が高くなっています。また、川尻で“ないと思う”の割合が高くなっています。



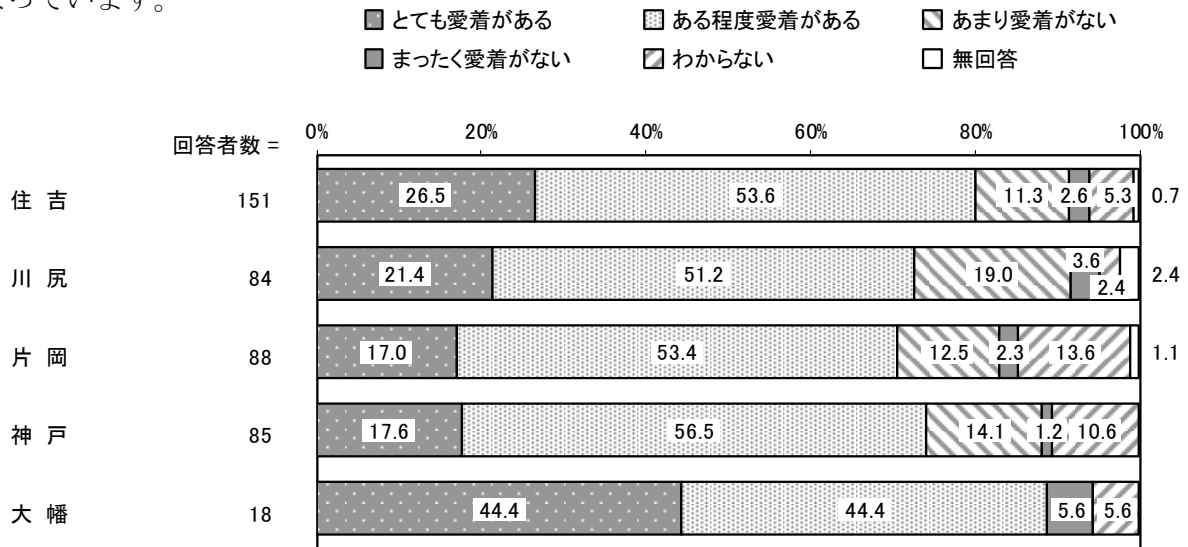
**問4 お住まいの地域に愛着がありますか。【〇は1つだけ】**

「とても愛着がある」と「ある程度愛着がある」をあわせた“愛着がある”の割合が76.1%と最も高く、次いで「あまり愛着がない」と「まったく愛着がない」を合わせた“愛着がない”の割合が15.4%、「わからない」が7.6%となっています。



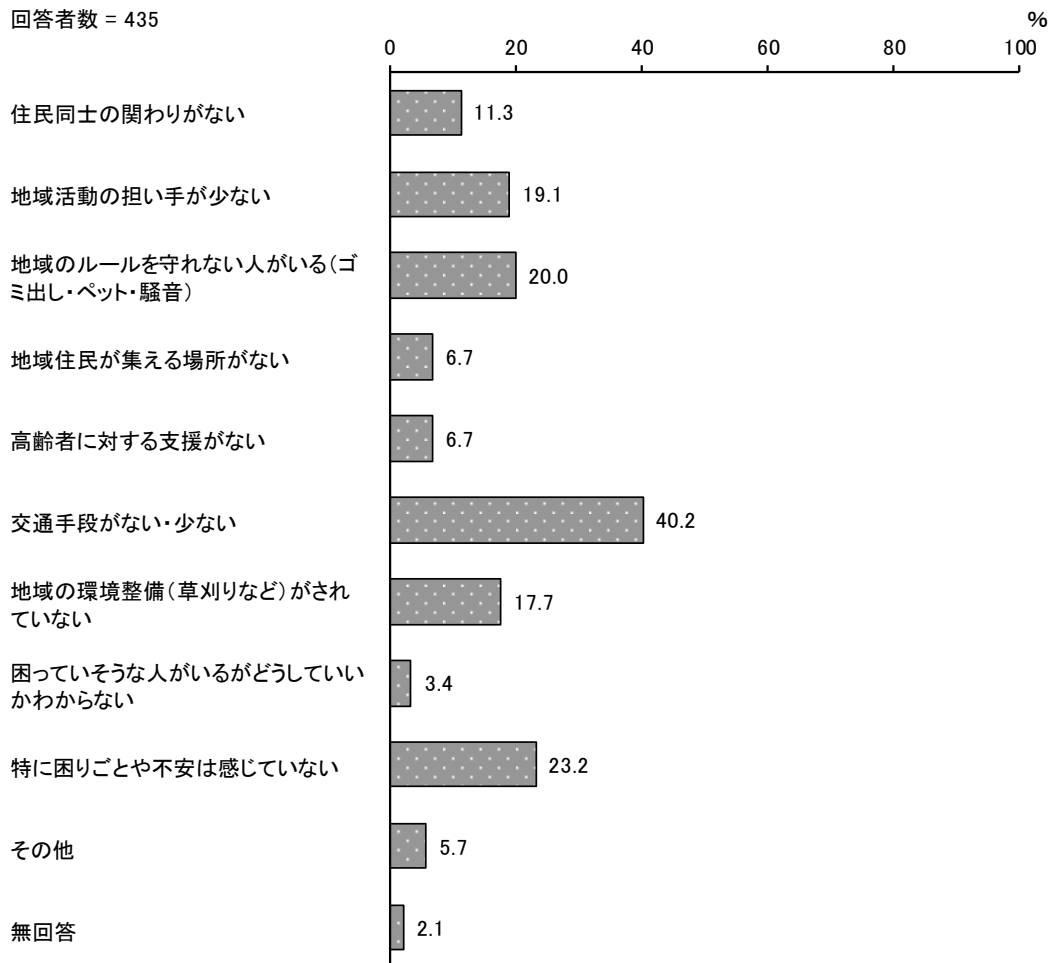
【地区別】

大幡で、“愛着がある”の割合が高くなっています。また、川尻で”愛着がない”の割合が高くなっています。



問5 お住まいの地域には困りごとがありますか。【〇は3つまで】

「交通手段がない・少ない」の割合が40.2%と最も高く、次いで「特に困りごとや不安は感じていない」の割合が23.2%、「地域のルールを守れない人がいる（ゴミ出し・ペット・騒音）」の割合が20.0%となっています。



### 【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20歳代で「交通手段がない・少ない」の割合が、60～64歳で「地域の環境整備（草刈りなど）がされていない」の割合が高くなっています。また、70～74歳で「住民同士の関わりがない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	住民同士の関わりがない	地域活動の担い手が少ない	地域のルールを守れない人がいる（ゴミ出し・ペット・騒音）	地域住民が集える場所がない	高齢者に対する支援がない	交通手段がない・少ない	地域の環境整備（草刈りなど）がされていない	困っていいような人がいるがどうしていいかわからない	特に困りごとや不安は感じていない	その他	無回答
18歳・19歳	3	—	33.3	—	—	—	66.7	33.3	—	—	—	—
20歳代	29	6.9	3.4	17.2	3.4	6.9	62.1	6.9	—	27.6	6.9	—
30歳代	52	7.7	9.6	17.3	3.8	—	40.4	13.5	3.8	28.8	9.6	1.9
40歳代	78	7.7	17.9	19.2	2.6	5.1	37.2	20.5	3.8	24.4	6.4	3.8
50歳代	73	8.2	17.8	19.2	4.1	8.2	49.3	12.3	2.7	24.7	5.5	—
60～64歳	43	7.0	20.9	23.3	7.0	—	23.3	30.2	2.3	25.6	2.3	2.3
65～69歳	50	12.0	26.0	28.0	12.0	10.0	32.0	18.0	2.0	22.0	6.0	2.0
70～74歳	65	21.5	27.7	24.6	13.8	10.8	38.5	21.5	6.2	15.4	4.6	3.1
75～79歳	32	15.6	21.9	9.4	9.4	15.6	43.8	15.6	6.3	21.9	3.1	—

### 【地区別】

地区別でみると、他に比べ、住吉で「地域活動の担い手が少ない」の割合が、片岡で「高齢者に対する支援がない」の割合が高くなっています。また、神戸で「特に困りごとや不安は感じていない」の割合が高くなっています。

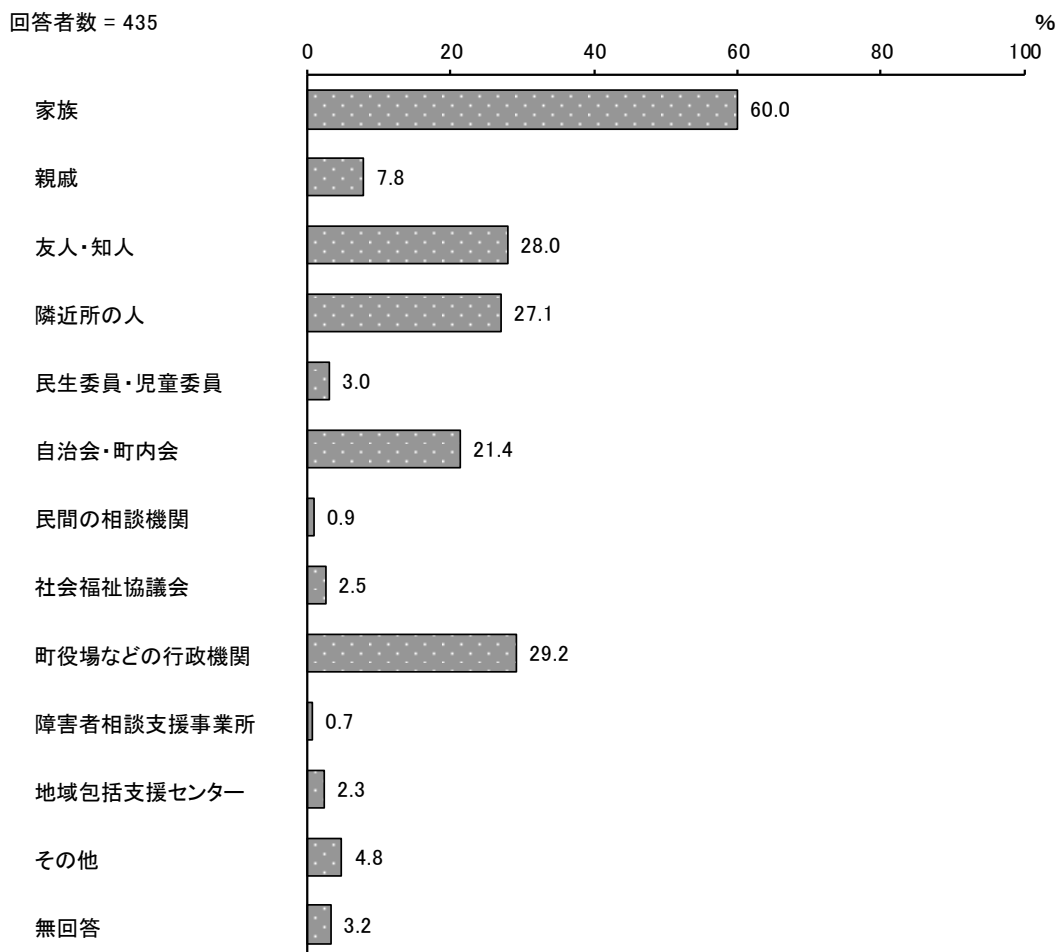
単位：％

区分	回答者数（件）	住民同士の関わりがない	地域活動の担い手が少ない	地域のルールを守れない人がいる（ゴミ出し・ペット・騒音）	地域住民が集える場所がない	高齢者に対する支援がない	交通手段がない・少ない	地域の環境整備（草刈りなど）がされていない	困っていいような人がいるがどうしていいかわからない	特に困りごとや不安は感じていない	その他	無回答
住吉	151	9.3	26.5	17.2	4.6	5.3	37.7	21.9	3.3	21.2	4.6	3.3
川尻	84	9.5	17.9	31.0	8.3	7.1	47.6	15.5	6.0	21.4	2.4	—
片岡	88	10.2	21.6	17.0	9.1	12.5	39.8	13.6	2.3	23.9	6.8	1.1
神戸	85	15.3	5.9	15.3	7.1	4.7	37.6	17.6	3.5	29.4	9.4	2.4
大幡	18	11.1	11.1	33.3	5.6	—	44.4	22.2	—	16.7	5.6	—



**問6 地域の困りごとをどこに相談しますか。【〇は3つまで】**

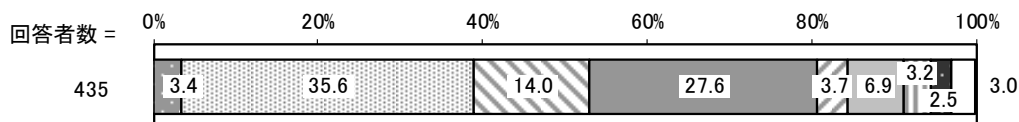
「家族」の割合が60.0%と最も高く、次いで「町役場などの行政機関」の割合が29.2%、「友人・知人」の割合が28.0%となっています。



**問7 近所に住んでいる、何らかの支援を必要としている方（一人暮らしの高齢者、介護をしている家族、子育て中の家族等）への支援（日常生活上の手助け・お手伝い）について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。【〇は1つだけ】**

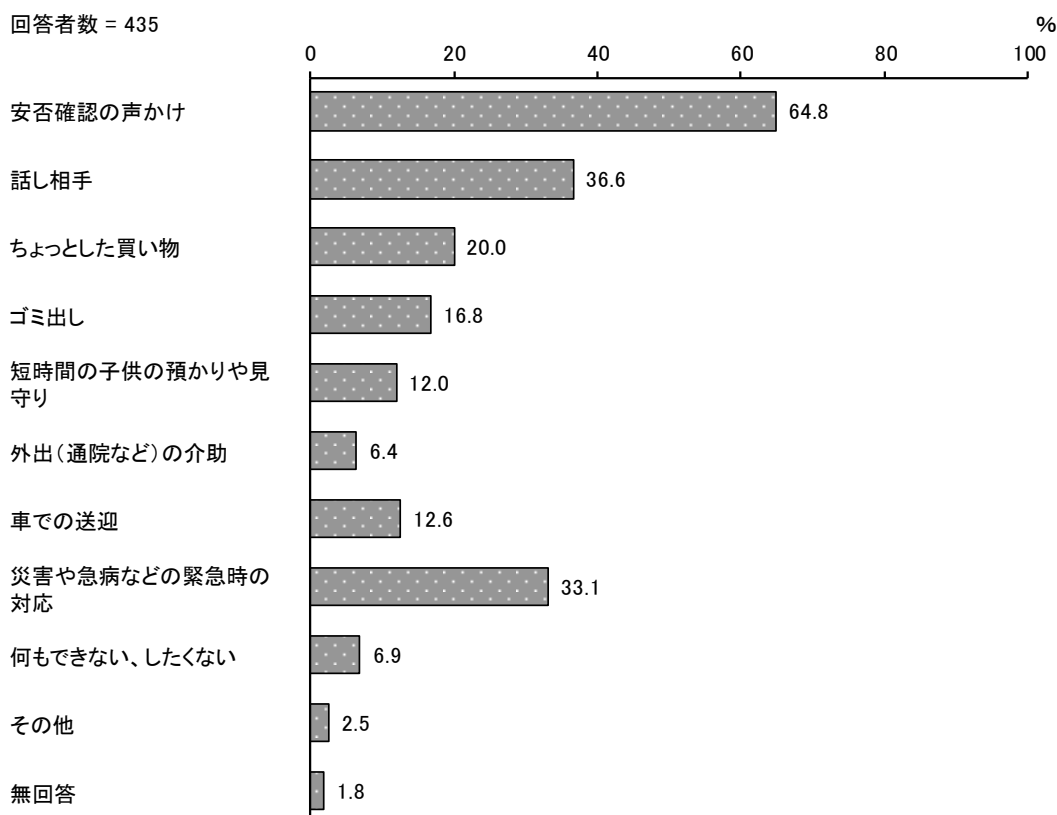
「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」の割合が35.6%と最も高く、次いで「支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない」の割合が27.6%、「支援をしたいが、何をすればいいのかわからない」の割合が14.0%となっています。

- 近所に住む者として、積極的に支援したい
- 近所に住む者として、できる範囲で支援したい
- 支援をしたいが、何をすればいいのかわからない
- 支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない
- 支援は町役場などがやる仕事なので、近所の者がしなくてもよい
- 余計なお世話になってしまうので、支援はしない
- その他
- わからない
- 無回答



**問 8 近所に、介護や、子育て等で困っている方がいた場合、あなたはどのようなことであれば、手助けができますか。【あてはまるものすべてに○】**

「安否確認の声かけ」の割合が64.8%と最も高く、次いで「話し相手」の割合が36.6%、「災害や急病などの緊急時の対応」の割合が33.1%となっています。

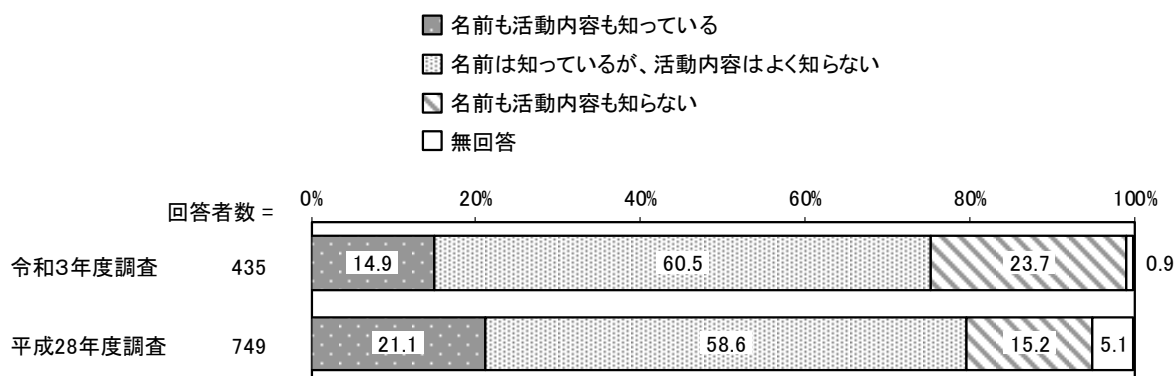


**(3) 社会福祉協議会について**

**問 9 「吉田町社会福祉協議会」を知っていますか。【○は1つだけ】**

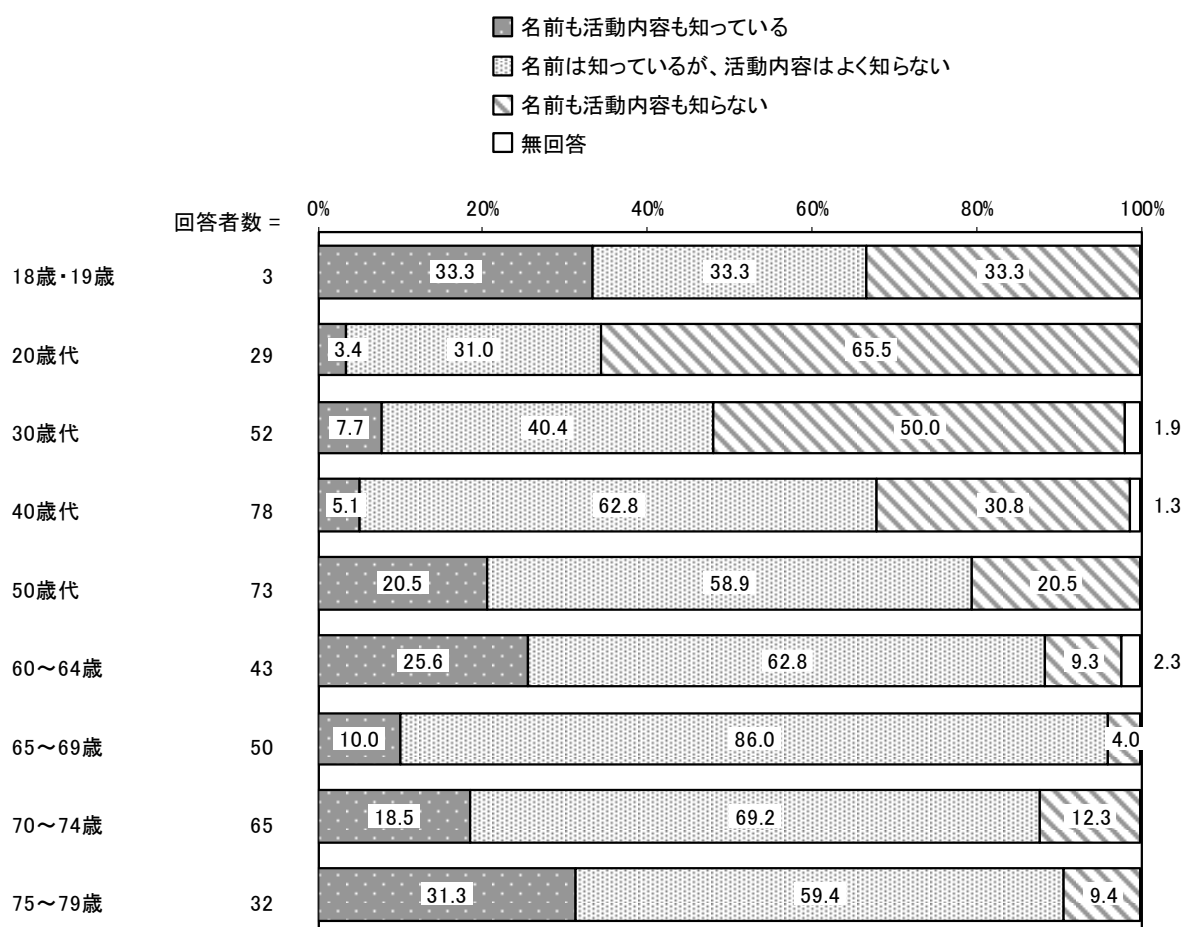
「名前は知っているが、活動内容はよく知らない」の割合が60.5%と最も高く、次いで「名前も活動内容も知らない」の割合が23.7%、「名前も活動内容も知っている」の割合が14.9%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「名前も活動内容も知らない」の割合が増加しています。



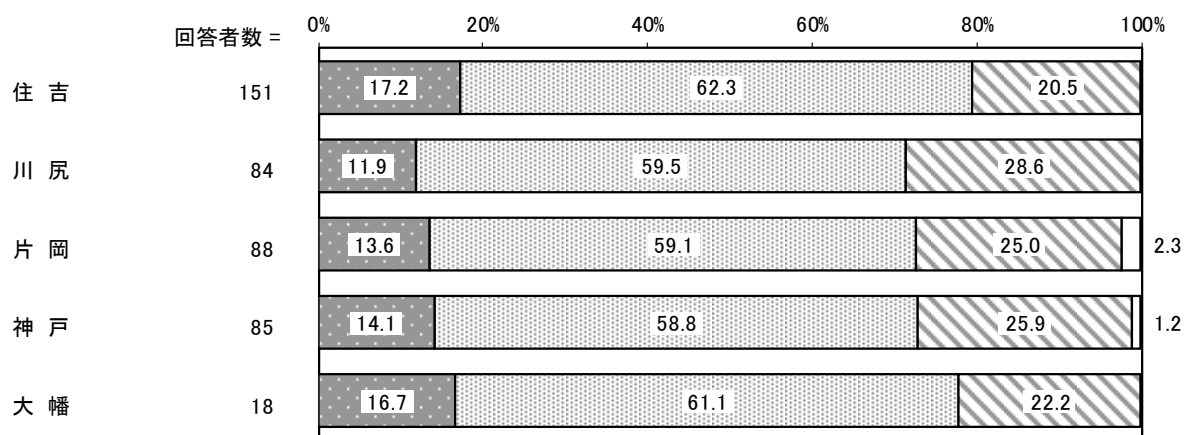
## 【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20歳代で「名前も活動内容も知らない」の割合が、75～79歳で「名前も活動内容も知っている」の割合が高くなっています。また、年齢が高くなるにつれて「名前も活動内容も知らない」の割合が低くなる傾向がみられます。



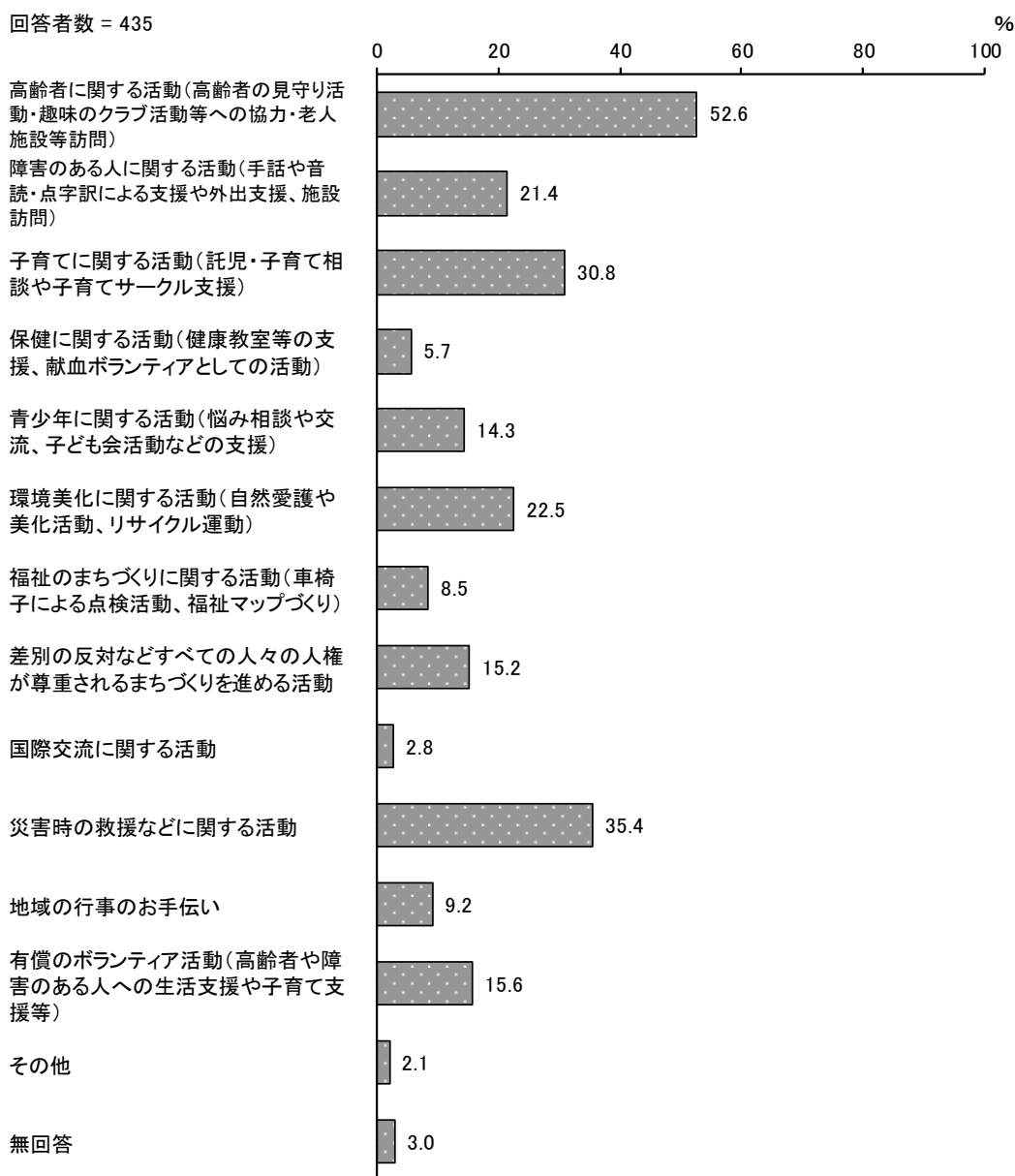
## 【地区別】

地区別でみると、大きな差異はみられません。



問 10 社会福祉協議会は、町内の全世帯を会員として、様々な福祉課題の解決に向けて活動や支援を行っています。社会福祉協議会が行う活動・支援として、今後、充実してほしいことはどれですか。【〇は3つまで】

「高齢者に関する活動(高齢者の見守り活動・趣味のクラブ活動等への協力・老人施設等訪問)」の割合が 52.6%と最も高く、次いで「災害時の救援などに関する活動」の割合が 35.4%、「子育てに関する活動(託児・子育て相談や子育てサークル支援)」の割合が 30.8%となっています。

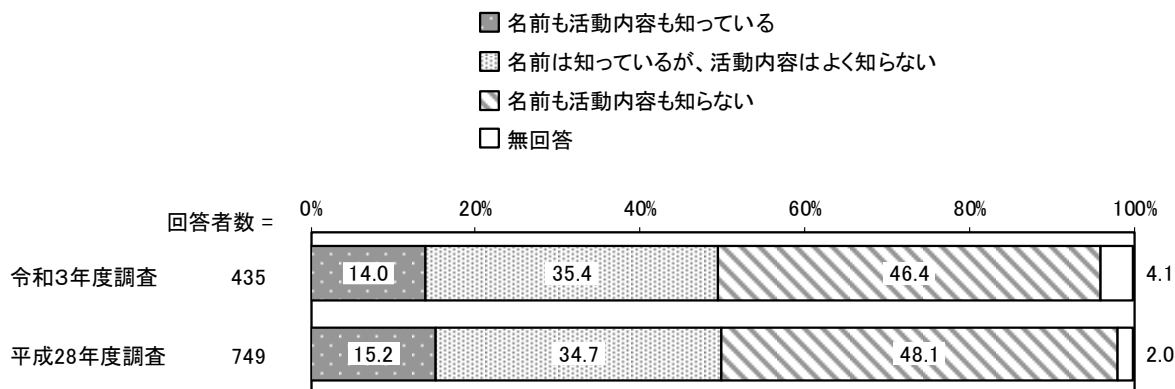


## (4) 地域包括支援センターについて

### 問 11 「地域包括支援センター」を知っていますか。【〇は1つだけ】

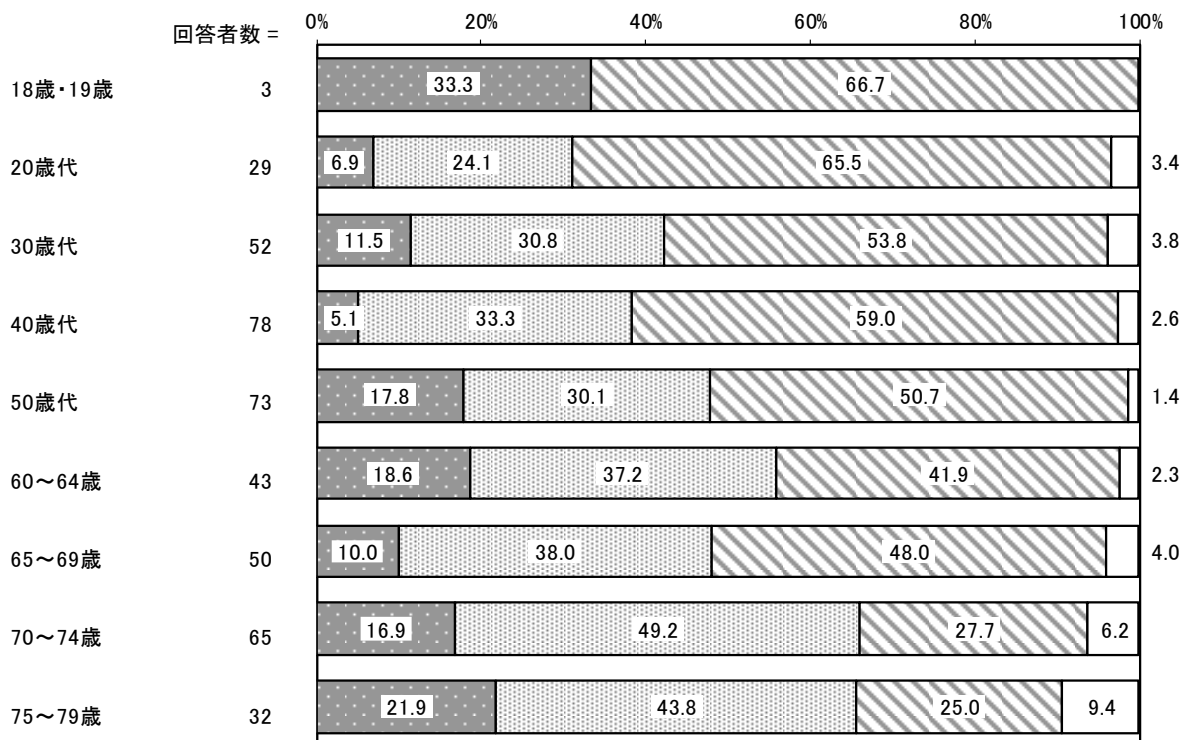
「名前も活動内容も知らない」の割合が46.4%と最も高く、次いで「名前は知っているが、活動内容はよく知らない」の割合が35.4%、「名前も活動内容も知っている」の割合が14.0%となっています。

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



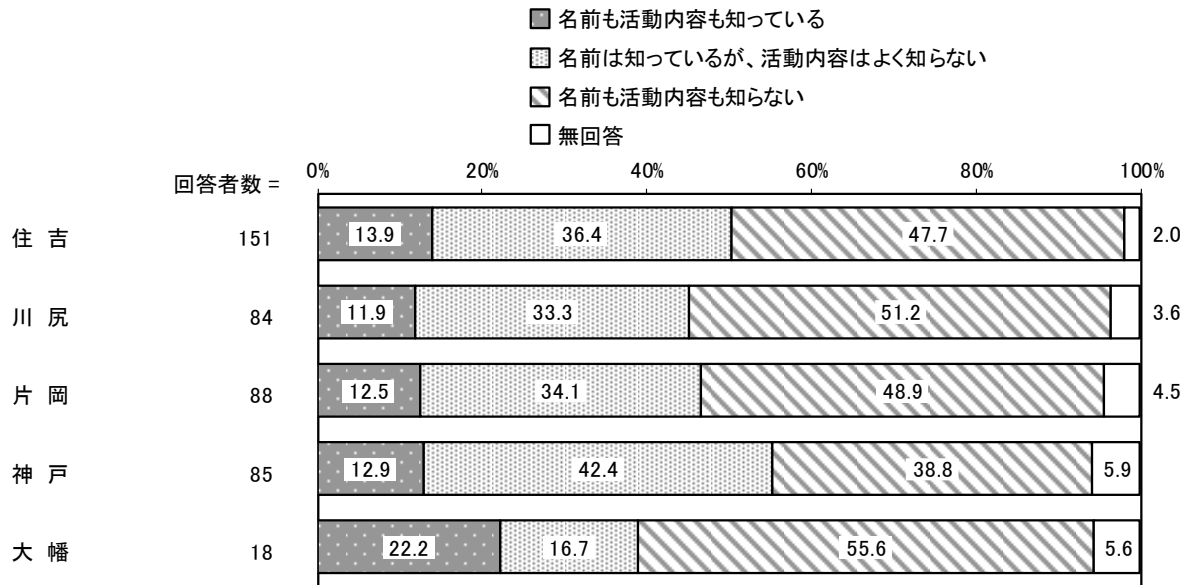
### 【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20歳代で「名前も活動内容も知らない」の割合が高くなっています。また、70～74歳で「名前は知っているが、活動内容はよく知らない」の割合が高くなっています。



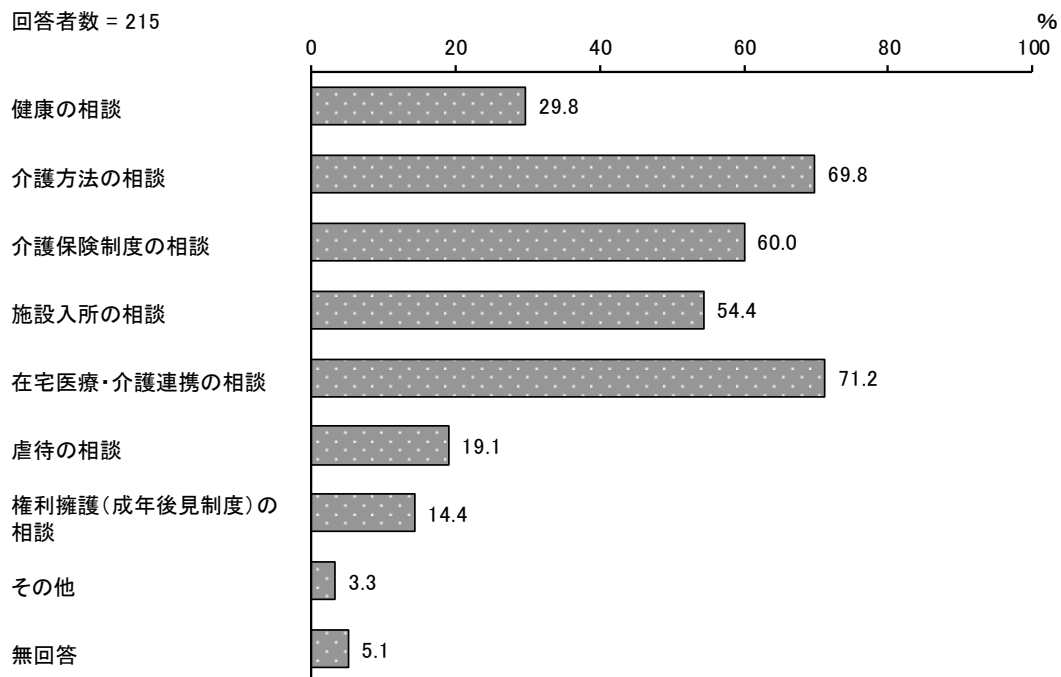
【地区別】

地区別でみると、他に比べ、大幡で「名前も活動内容も知っている」の割合が高くなっています。また、神戸で「名前は知っているが、活動内容はよく知らない」の割合が高くなっています。



問 12 「吉田町地域包括支援センター」はどのような活動をしているところだと思いますか。【あてはまるものすべてに○】

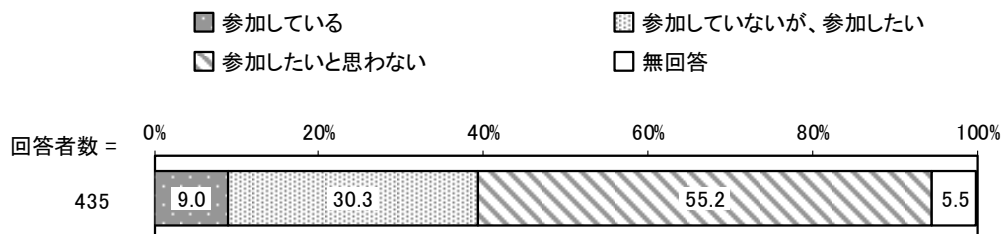
「在宅医療・介護連携の相談」の割合が71.2%と最も高く、次いで「介護方法の相談」の割合が69.8%、「介護保険制度の相談」の割合が60.0%となっています。



## (5) ボランティア活動について

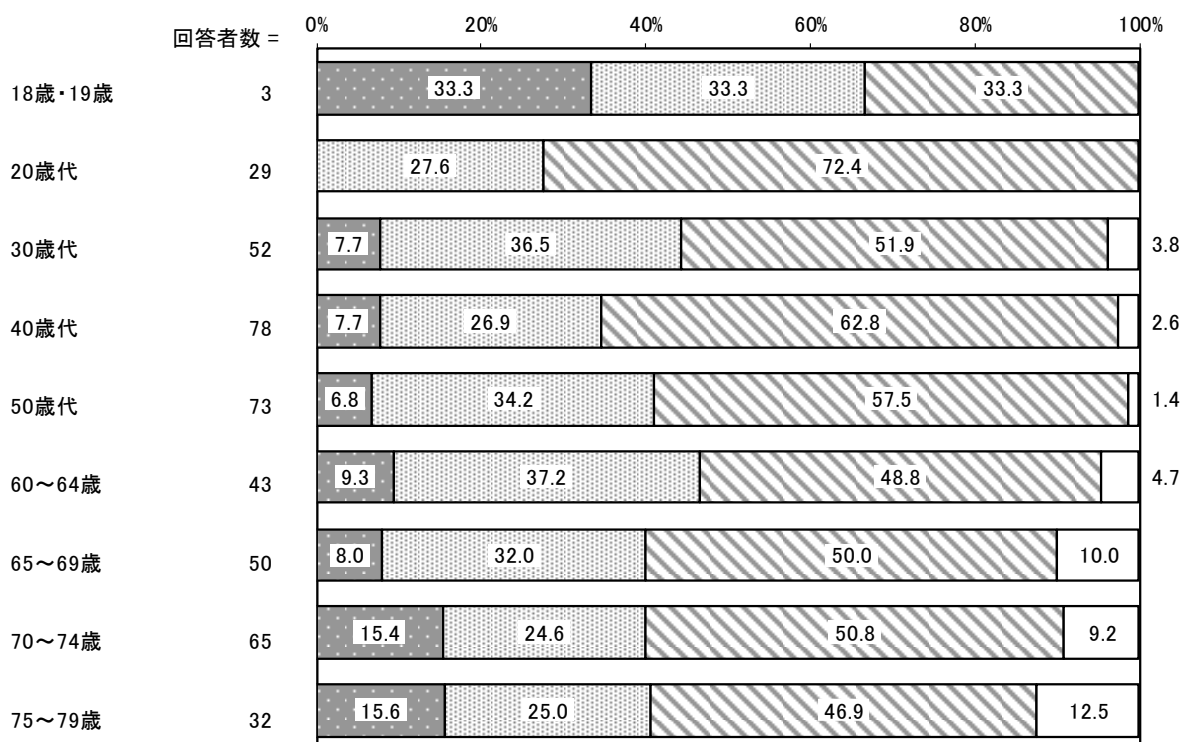
### 問 13 ボランティア活動に参加していますか。【〇は1つだけ】

「参加したいと思わない」の割合が 55.2%と最も高く、次いで「参加していないが、参加したい」の割合が 30.3%となっています。



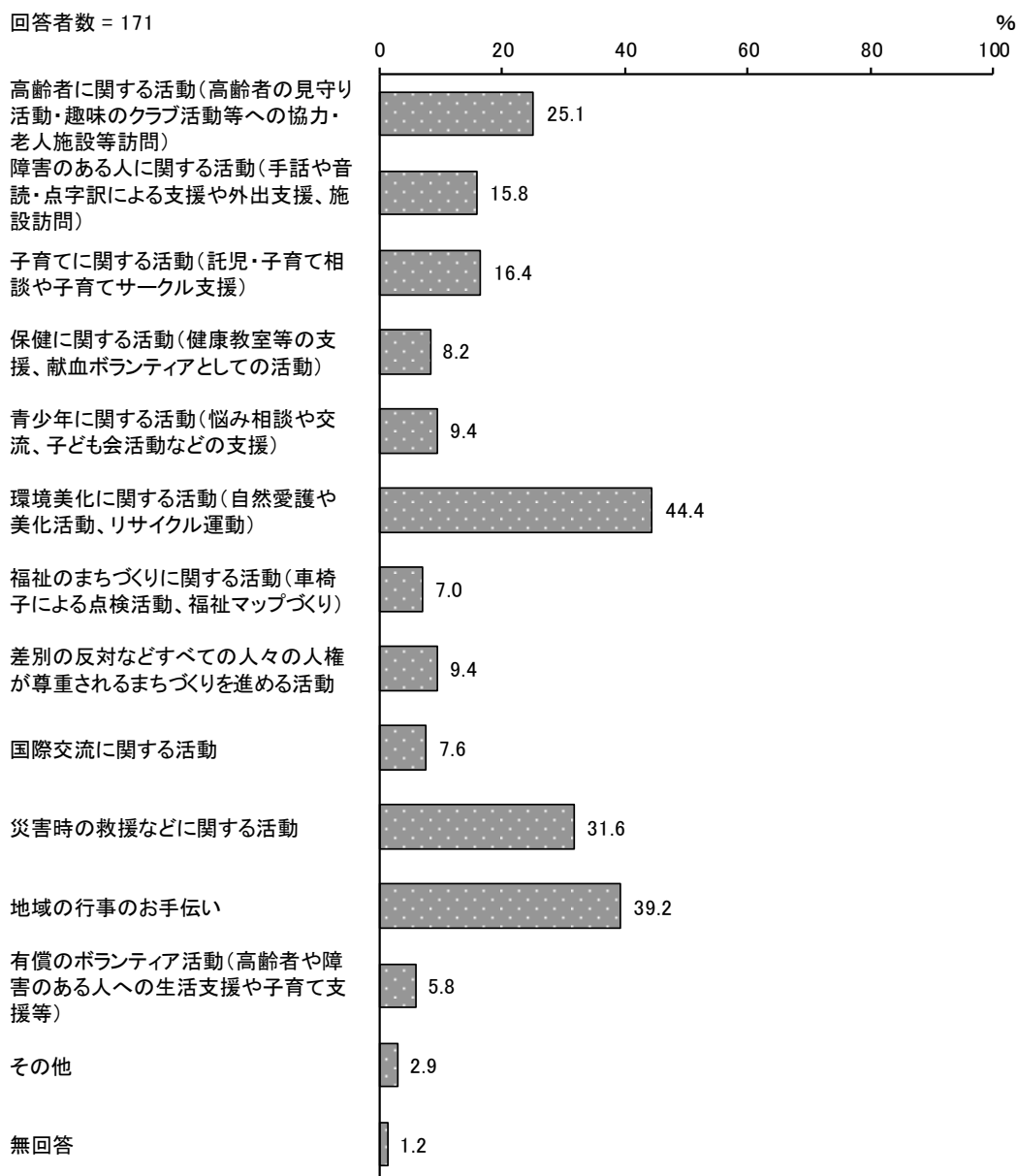
#### 【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20歳代で「参加したいと思わない」の割合が高くなっています。



問 14 あなたは、今までに、どのようなボランティア活動に参加したことがありますか。または、参加したいですか。【あてはまるものすべてに○】

「環境美化に関する活動（自然愛護や美化活動、リサイクル運動）」の割合が 44.4%と最も高く、次いで「地域の行事のお手伝い」の割合が 39.2%、「災害時の救援などに関する活動」の割合が 31.6%となっています。

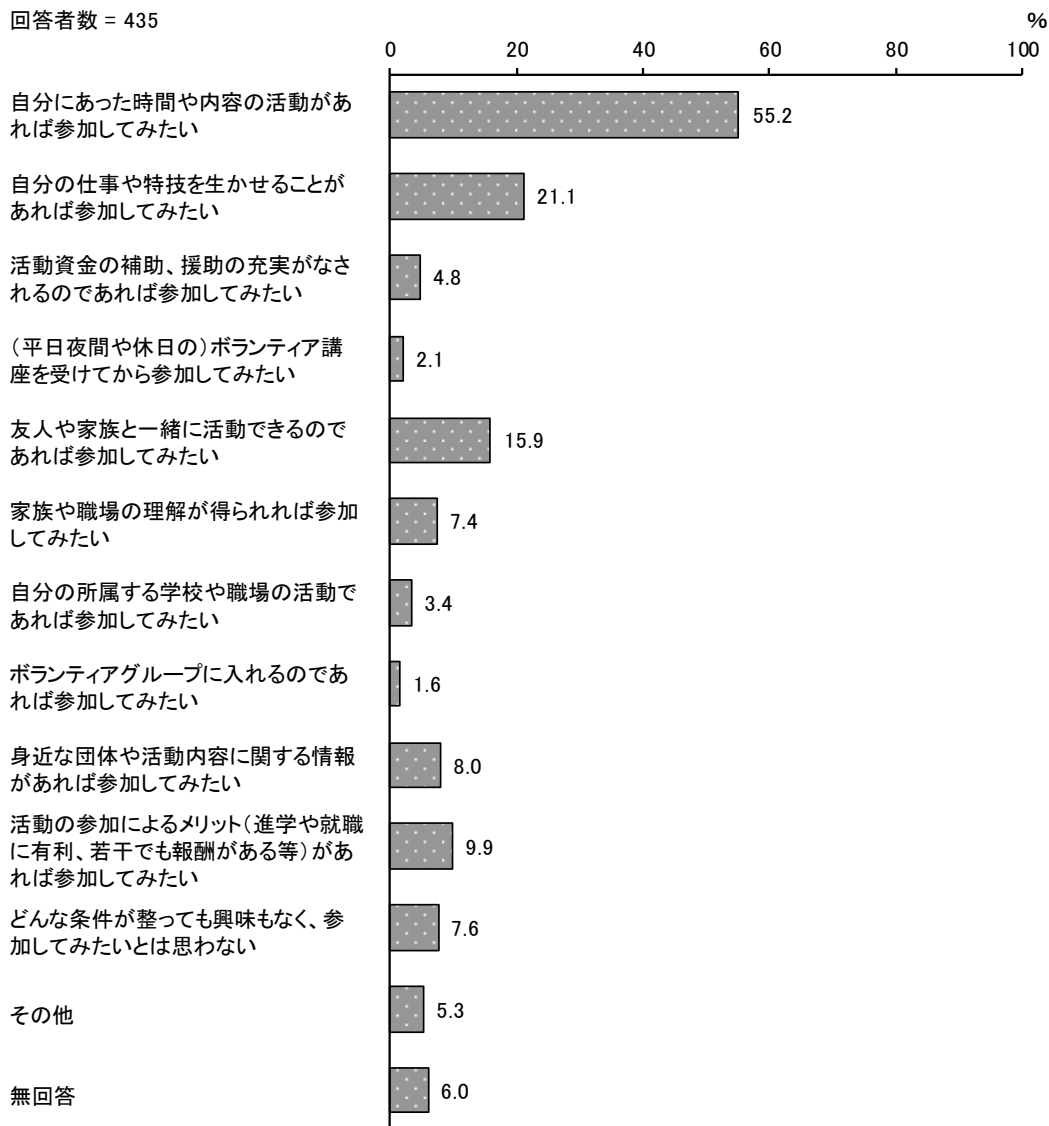




問 15 どのような条件が整えばボランティア活動に参加しやすくなると思いますか。  
【〇は2つまで】

「自分にあった時間や内容の活動があれば参加してみたい」の割合が 55.2%と最も高く、次いで「自分の仕事や特技を生かせることがあれば参加してみたい」の割合が 21.1%、「友人や家族と一緒に活動できるのであれば参加してみたい」の割合が 15.9%となっています。

回答者数 = 435



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、50歳代で「自分の仕事や特技を生かせることがあれば参加してみたい」の割合が高くなっています。また、70～74歳で「どんな条件が整っても興味もなく、参加してみたいとは思わない」の割合が高くなっています。

単位：％

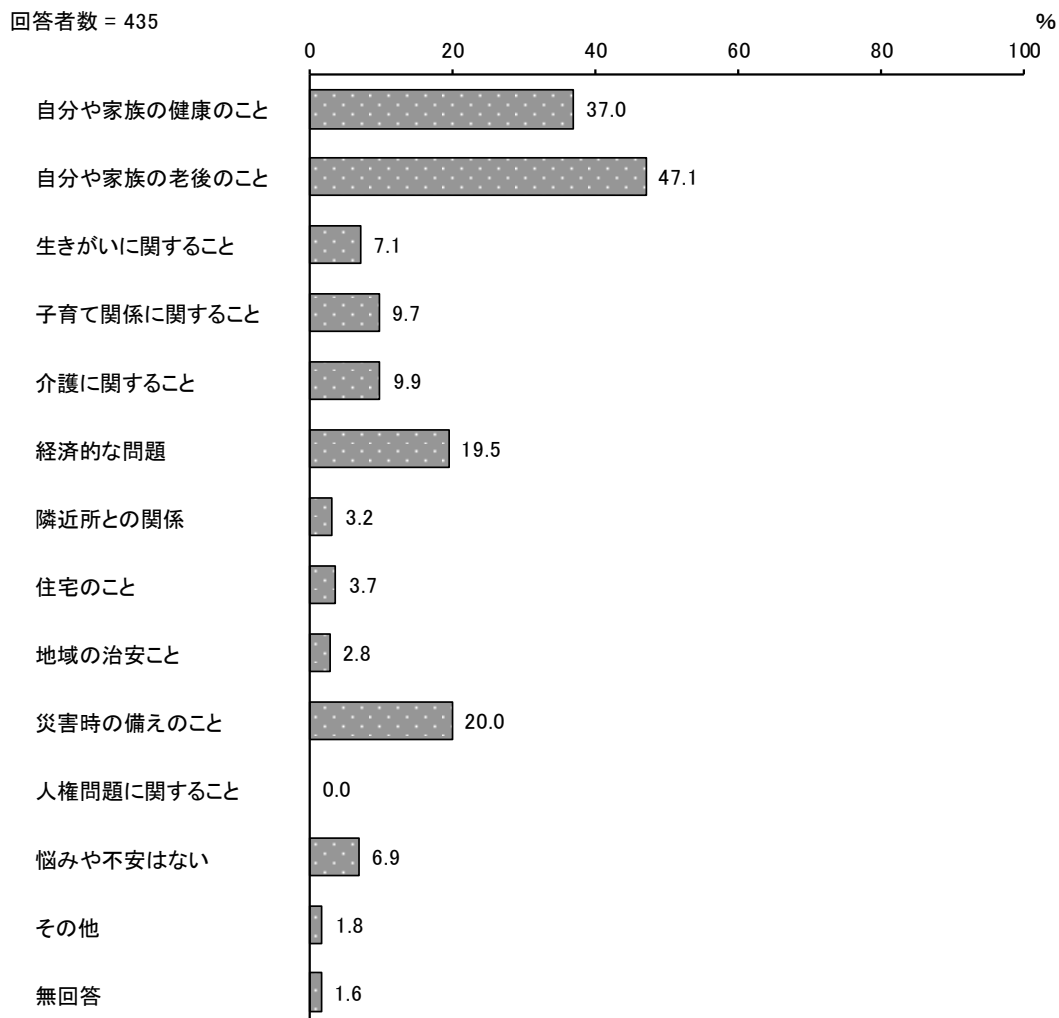
区分	回答者数(件)	自分にあつた時間や内容の活動があれば参加してみたい	自分の仕事や特技を生かせることがあれば参加してみたい	活動資金の補助、援助の充実に満たされるのであれば参加してみたい	(平日夜間や休日の)ボランティア講座を受けてから参加してみたい	友人や家族と一緒に活動できるのであれば参加してみたい	家族や職場の理解が得られれば参加してみたい
18歳・19歳	3	66.7	100.0	—	—	33.3	—
20歳代	29	65.5	17.2	3.4	—	27.6	10.3
30歳代	52	51.9	11.5	1.9	—	21.2	9.6
40歳代	78	55.1	21.8	6.4	2.6	16.7	10.3
50歳代	73	63.0	27.4	6.8	5.5	11.0	8.2
60～64歳	43	55.8	18.6	7.0	2.3	11.6	9.3
65～69歳	50	64.0	18.0	8.0	2.0	12.0	2.0
70～74歳	65	46.2	20.0	1.5	1.5	10.8	6.2
75～79歳	32	34.4	21.9	3.1	—	25.0	3.1

区分	自分の所属する学校や職場の活動であれば参加してみたい	ボランティアグループに入れるのであれば参加してみたい	身近な団体や活動内容に関する情報があれば参加してみたい	活動の参加によるメリット(進学や就職に有利、若干でも報酬がある等)があれば参加してみたい	どんな条件が整っても興味もなく、参加してみたいとは思わない	その他	無回答
18歳・19歳	—	—	—	—	—	—	—
20歳代	3.4	—	—	27.6	6.9	—	3.4
30歳代	7.7	1.9	5.8	23.1	5.8	3.8	5.8
40歳代	6.4	1.3	1.3	10.3	6.4	7.7	2.6
50歳代	2.7	4.1	5.5	12.3	5.5	1.4	1.4
60～64歳	4.7	—	7.0	9.3	9.3	7.0	2.3
65～69歳	2.0	—	18.0	2.0	8.0	4.0	2.0
70～74歳	—	1.5	18.5	1.5	15.4	6.2	13.8
75～79歳	—	—	9.4	—	3.1	12.5	21.9

## (6) 相談支援・福祉サービスに対する意識について

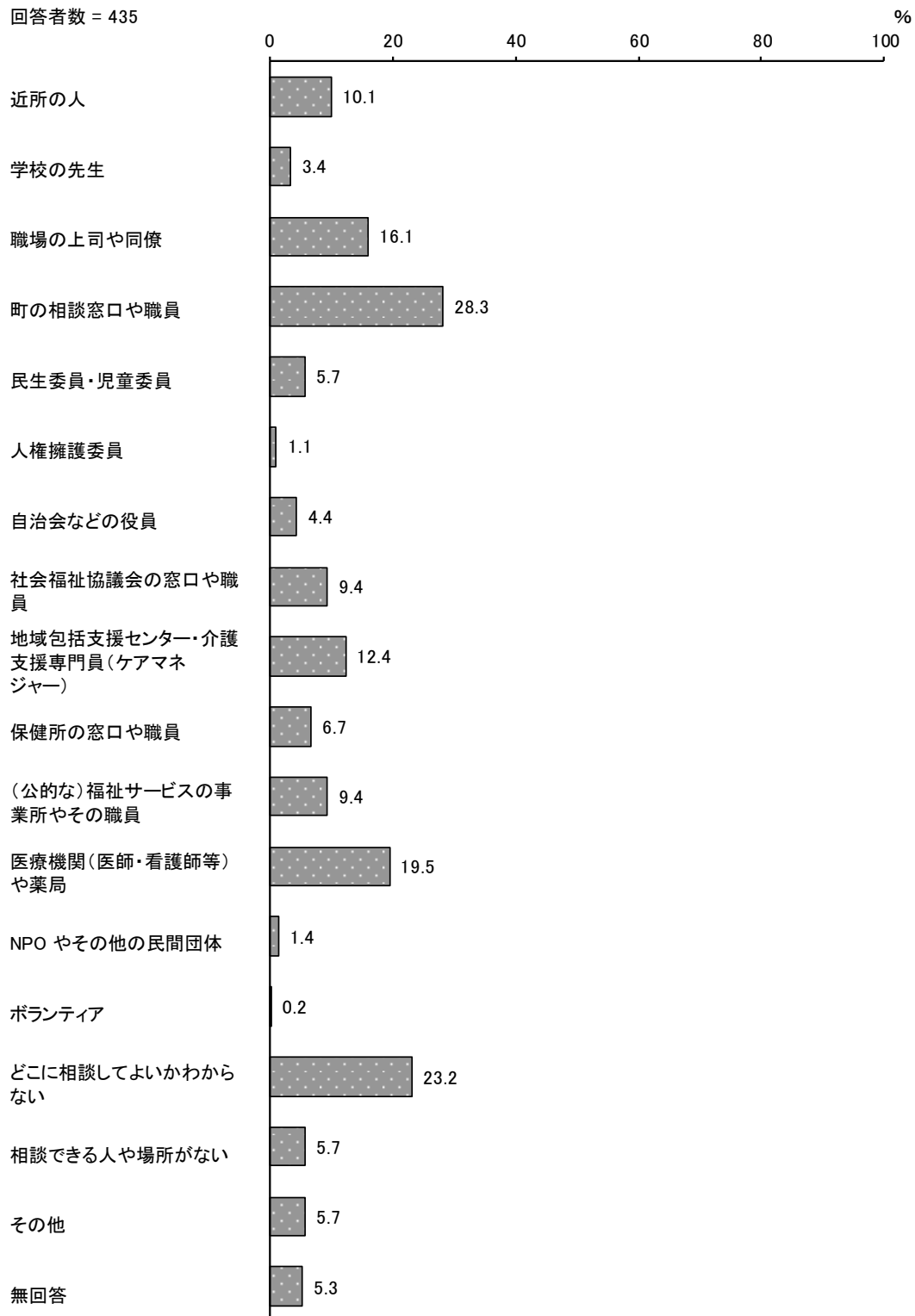
問 16 日々の生活において、主にどのような悩みや不安を感じていますか。  
【〇は2つまで】

「自分や家族の老後のこと」の割合が 47.1%と最も高く、次いで「自分や家族の健康のこと」の割合が 37.0%、「災害時の備えのこと」の割合が 20.0%となっています。



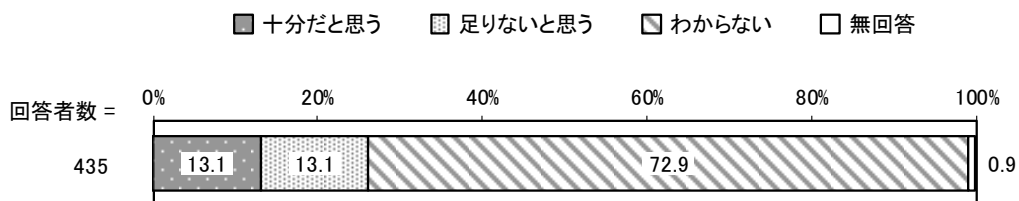
問 17 家族や友人で解決できない悩みや不安について、誰に、もしくはどこに相談しますか。【あてはまるものすべてに○】

「町の相談窓口や職員」の割合が 28.3%と最も高く、次いで「どこに相談してよいかわからない」の割合が 23.2%、「医療機関（医師・看護師等）や薬局」の割合が 19.5%となっています。



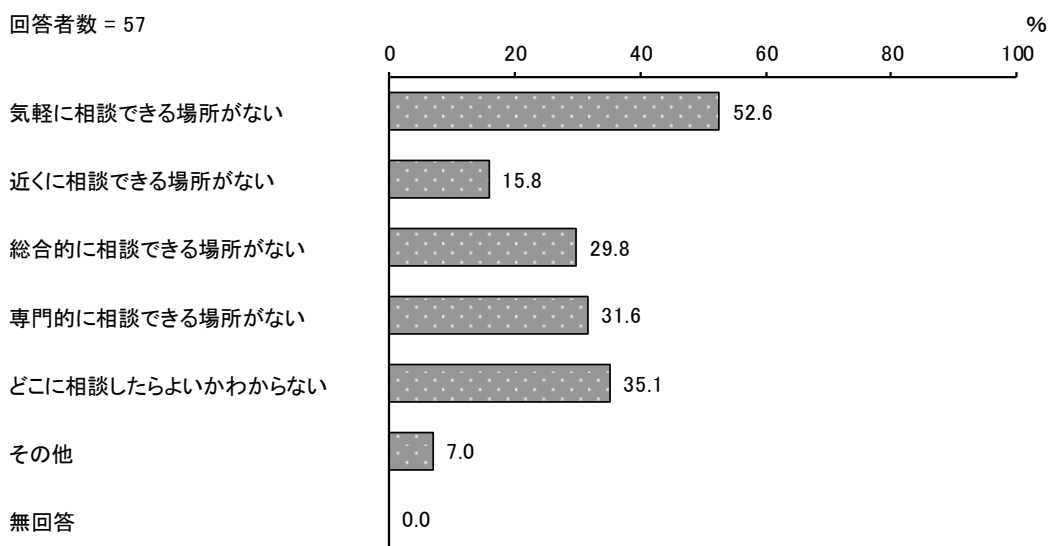
問 18 町では、役場福祉課の相談窓口や社会福祉協議会、地域の民生委員・児童委員、地域包括支援センター等において福祉相談に対応しています。あなたは、現在の相談支援体制は十分だと思いますか。【〇は1つだけ】

「わからない」の割合が72.9%と最も高く、次いで「十分だと思う」、「足りないと思う」の割合が13.1%となっています。



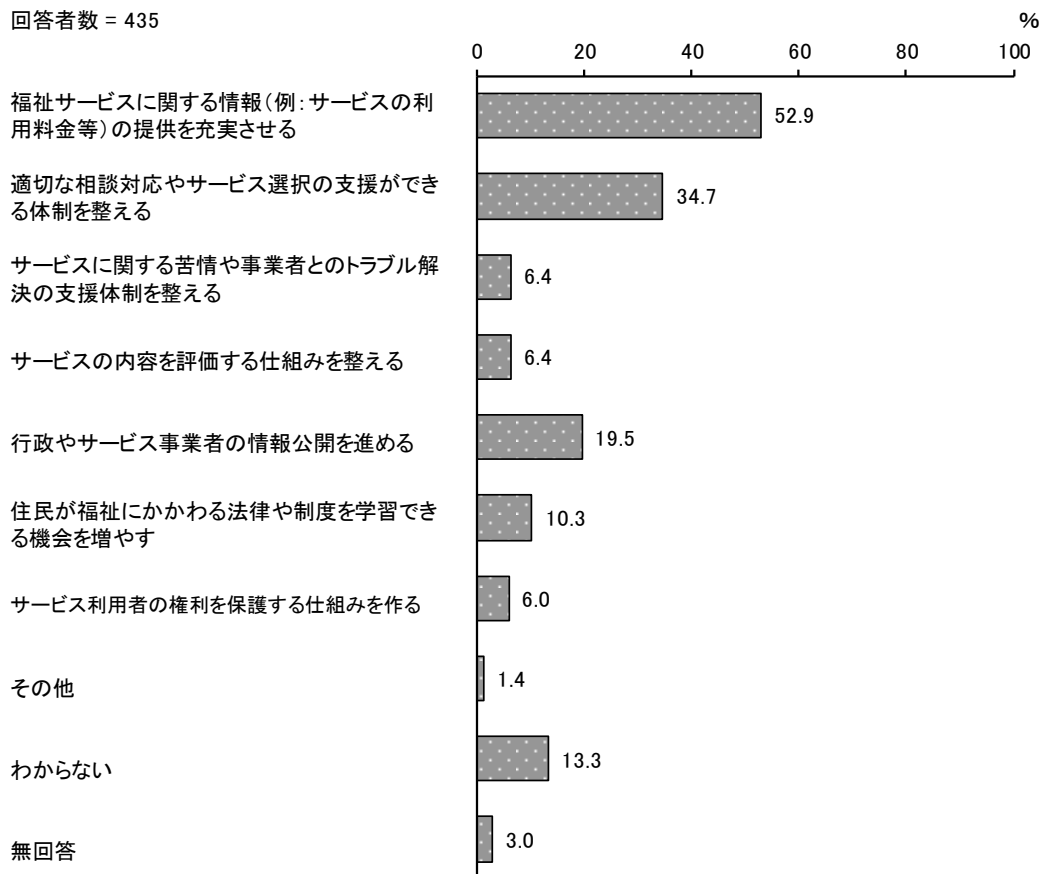
問 19 どのようなことが足りないと思いますか。【あてはまるものすべてに〇】

「気軽に相談できる場所がない」の割合が52.6%と最も高く、次いで「どこに相談したらよいかわからない」の割合が35.1%、「専門的に相談できる場所がない」の割合が31.6%となっています。



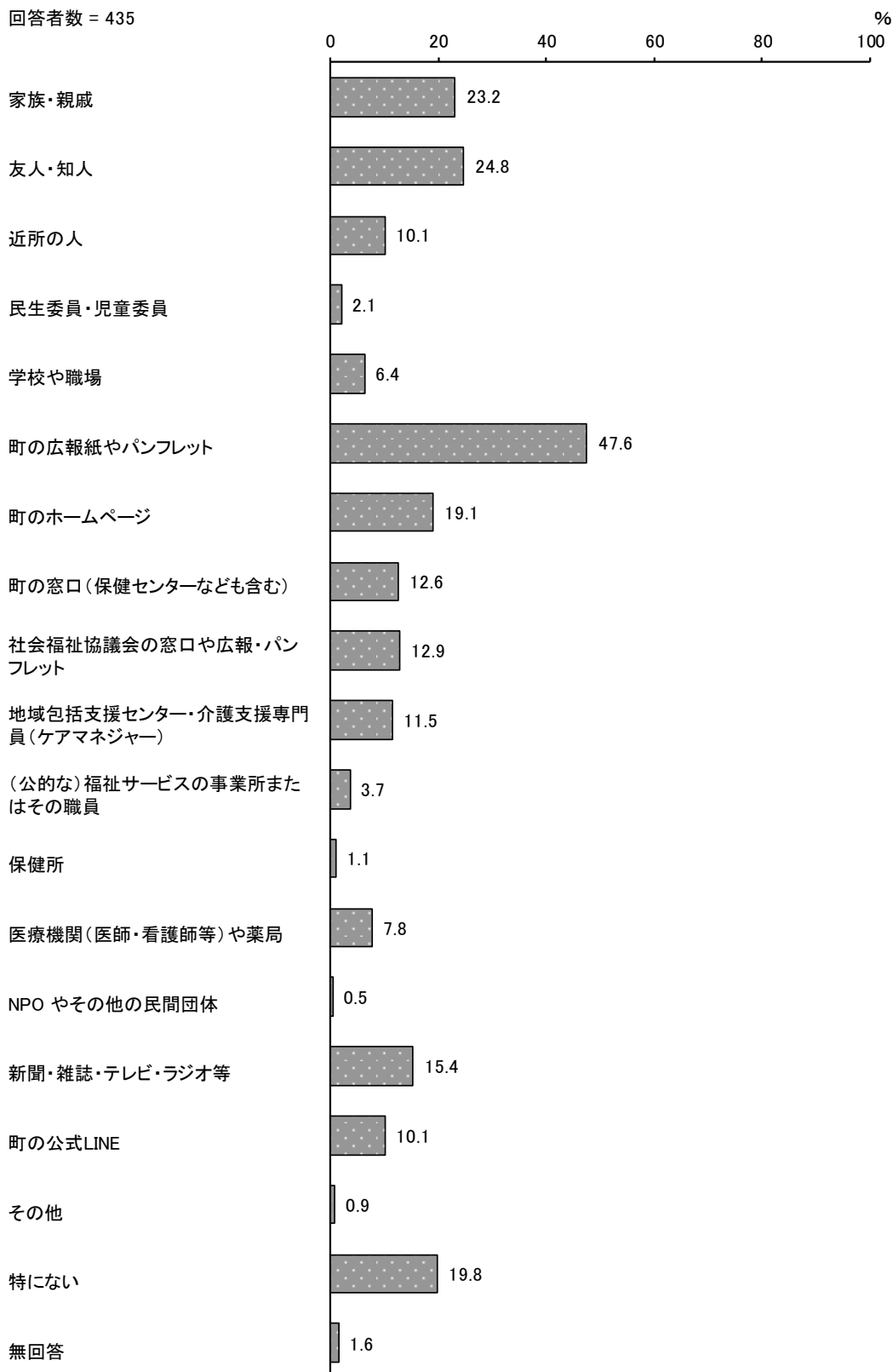
問 20 多くの福祉サービスは、利用者が自由にサービスを選んで利用できるようになりました。利用者が自分に最適のサービスを安心して利用するためには、町では今後どのようなことに取り組む必要があると思いますか。【〇は2つまで】

「福祉サービスに関する情報（例：サービスの利用料金等）の提供を充実させる」の割合が52.9%と最も高く、次いで「適切な相談対応やサービス選択の支援ができる体制を整える」の割合が34.7%、「行政やサービス事業者の情報公開を進める」の割合が19.5%となっています。



問 21 福祉サービスに関する情報はどこから入手していますか。  
【あてはまるものすべてに○】

「町の広報紙やパンフレット」の割合が 47.6%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が 24.8%、「家族・親戚」の割合が 23.2%となっています。

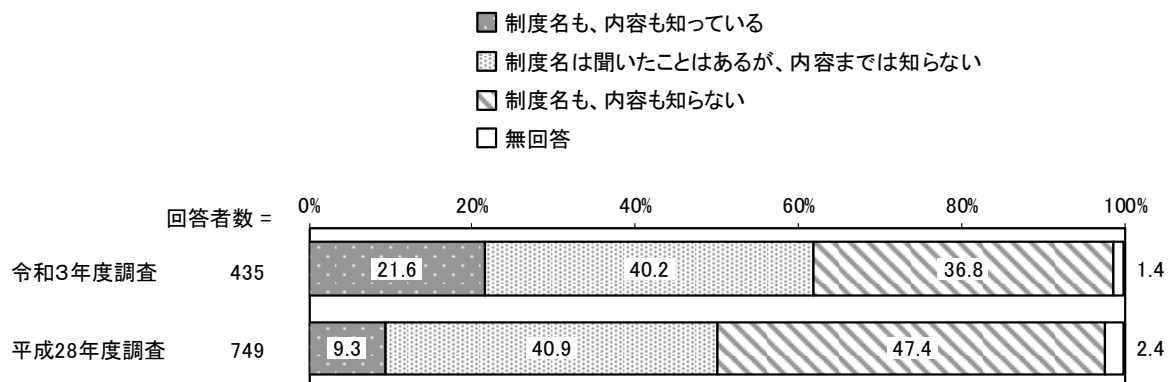


## (7) 成年後見制度について

### 問 22 成年後見制度を知っていますか。【〇は1つだけ】

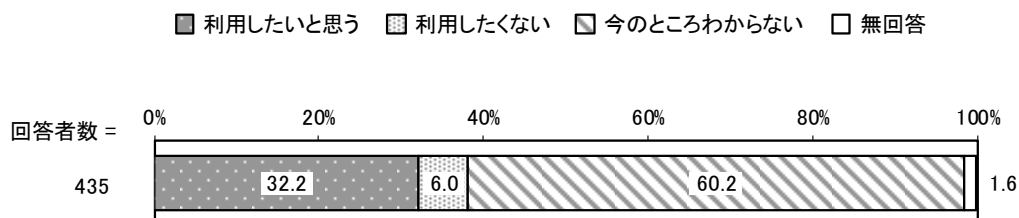
「制度名は聞いたことはあるが、内容までは知らない」の割合が40.2%と最も高く、次いで「制度名も、内容も知らない」の割合が36.8%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「制度名も、内容も知っている」の割合が増加しています。



### 問 23 あなたやあなたの親族が認知症などにより、物事を判断する能力が十分でなくなったときに、成年後見制度を利用したいと思いますか。【〇は1つだけ】

「今のところわからない」の割合が60.2%と最も高く、次いで「利用したいと思う」の割合が32.2%となっています。

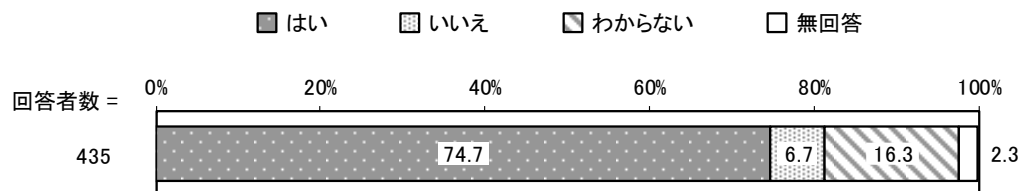




## (8) 災害時の避難について

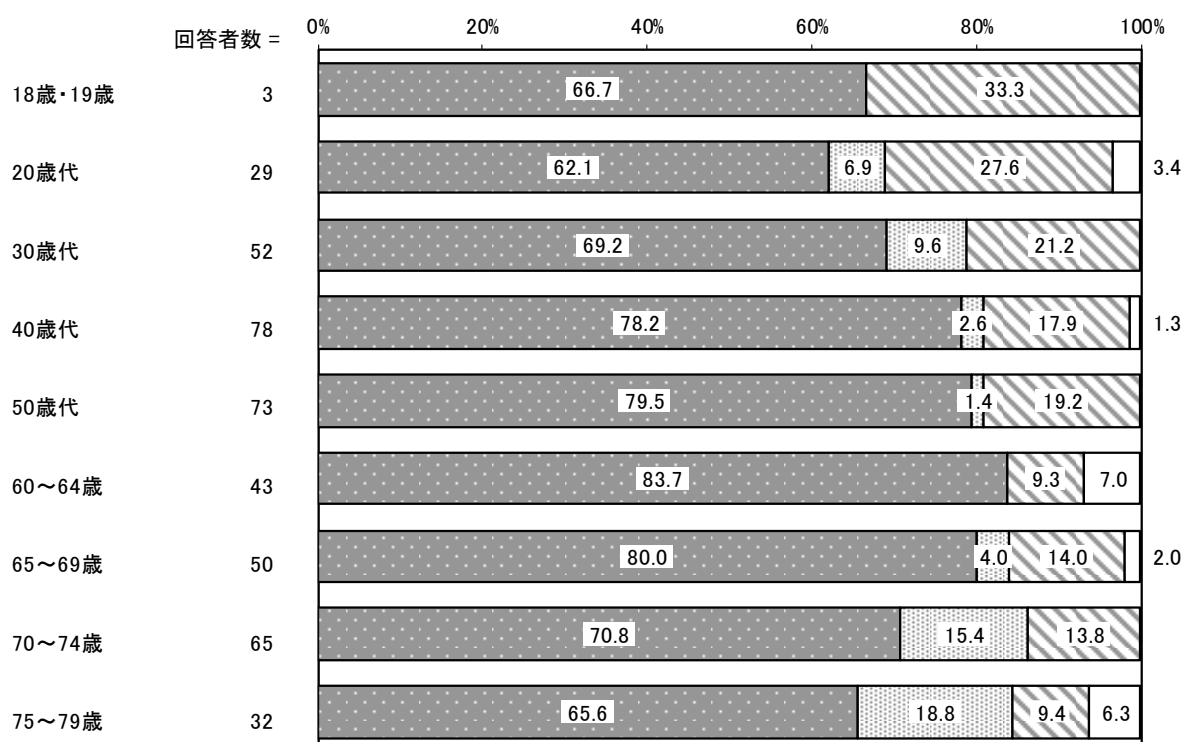
問 24 地震や風水害などが起こった時、あなたは避難場所などの安全な場所へ1人で避難できますか。【〇は1つだけ】

「はい」の割合が74.7%と最も高く、次いで「わからない」の割合が16.3%となっています。



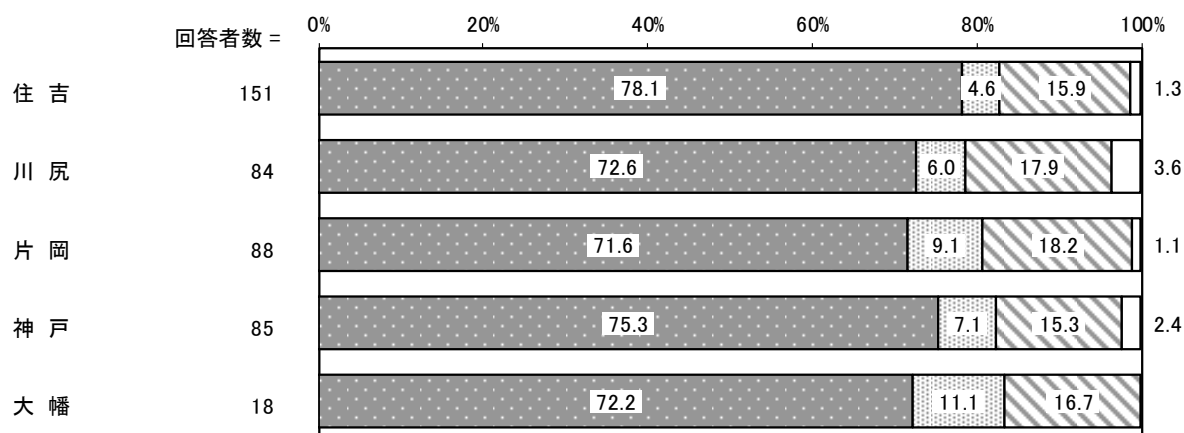
### 【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20歳代で「わからない」の割合が高くなっています。



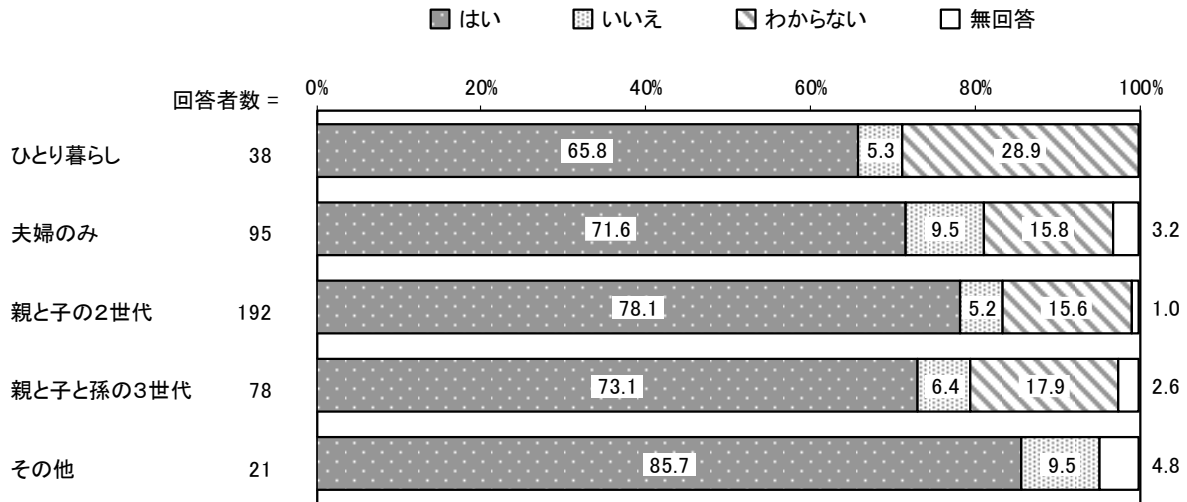
### 【地区別】

地区別でみると、大きな差異はみられません。



## 【家族構成別】

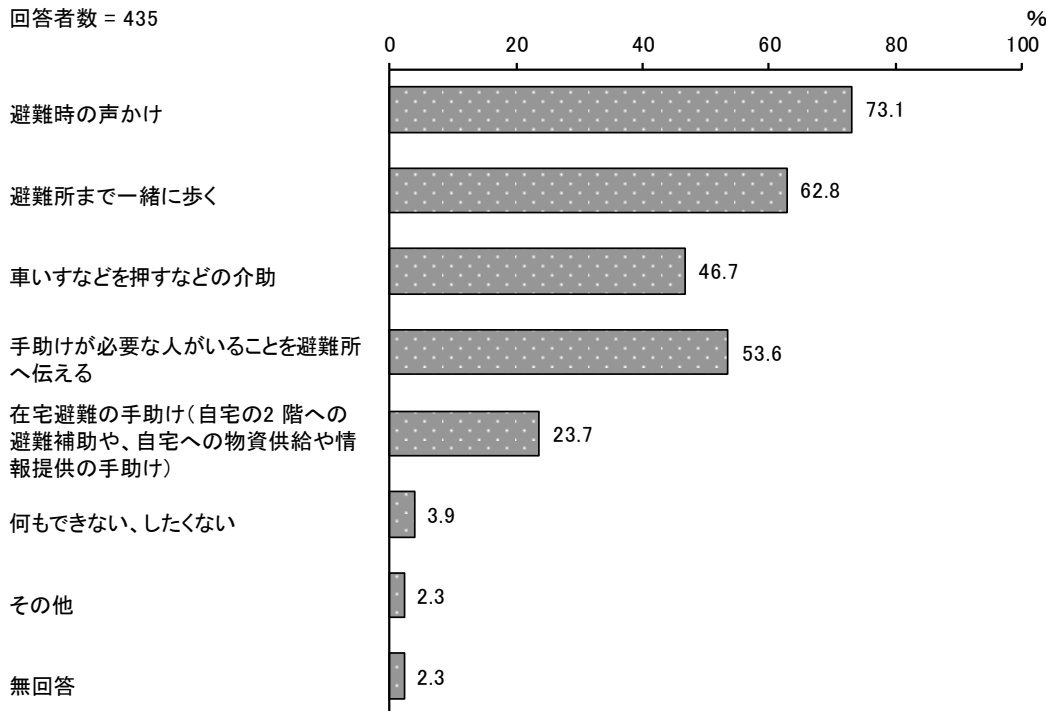
家族構成別でみると、他に比べ、ひとり暮らしで「わからない」の割合が高くなっています。



問 25 災害時、避難する時にあなたができることはありますか。

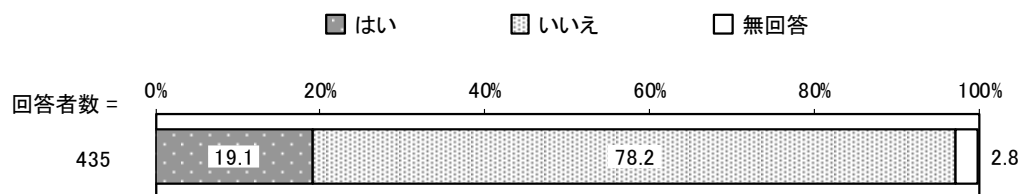
【あてはまるものすべてに○】

「避難時の声かけ」の割合が 73.1%と最も高く、次いで「避難所まで一緒に歩く」の割合が 62.8%、「手助けが必要な人がいることを避難所へ伝える」の割合が 53.6%となっています。



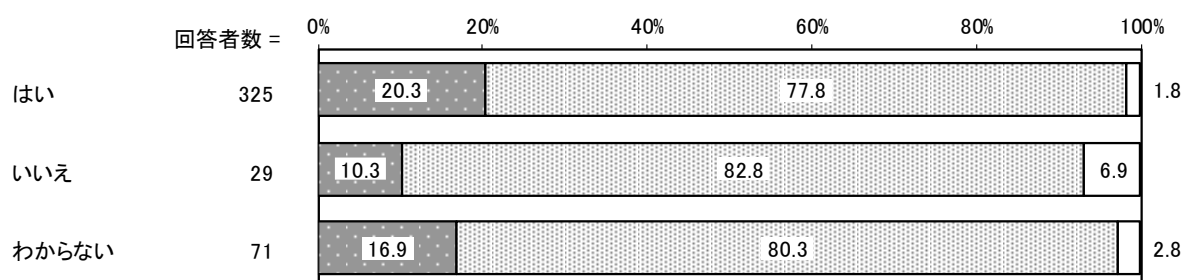
**問 26 町では、災害時の避難に特に配慮が必要な方の情報を掲載した「避難行動要支援者名簿」を作成しています。この取組を知っていますか。【○は1つだけ】**

「はい」の割合が19.1%、「いいえ」の割合が78.2%となっています。



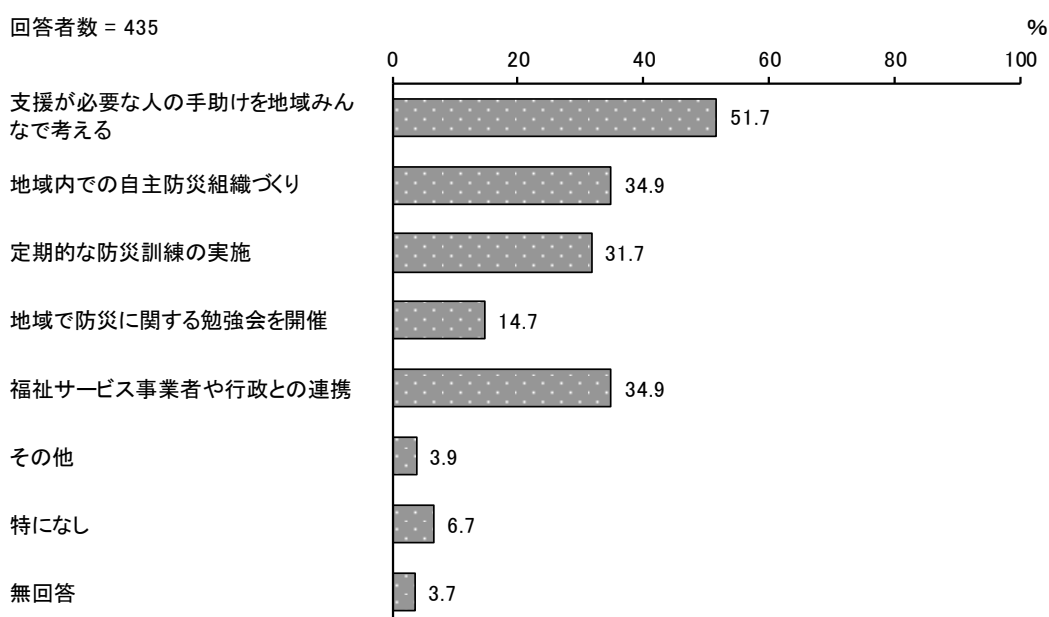
**【一人での避難の可否別】**

一人での避難の可否別でみると、大きな差異はみられません。



**問 27 災害時に地域の住民同士が協力し合えるためには、どのようなことが必要だと思いますか。【あてはまるものすべてに○】**

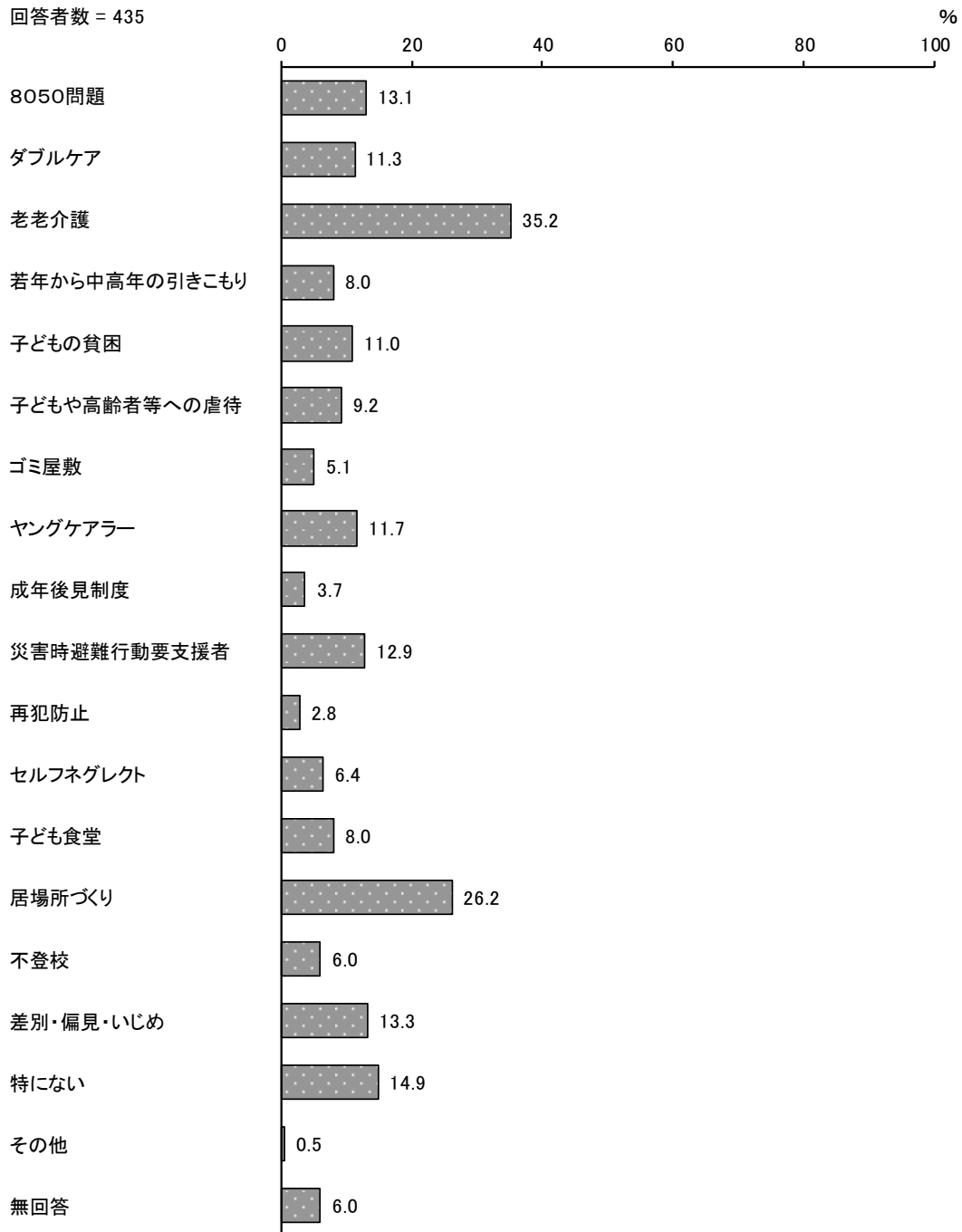
「支援が必要な人の手助けを地域みんなで考える」の割合が51.7%と最も高く、次いで「地域内での自主防災組織づくり」、「福祉サービス事業者や行政との連携」の割合が34.9%となっています。



## (9) 今後の地域福祉のあり方について

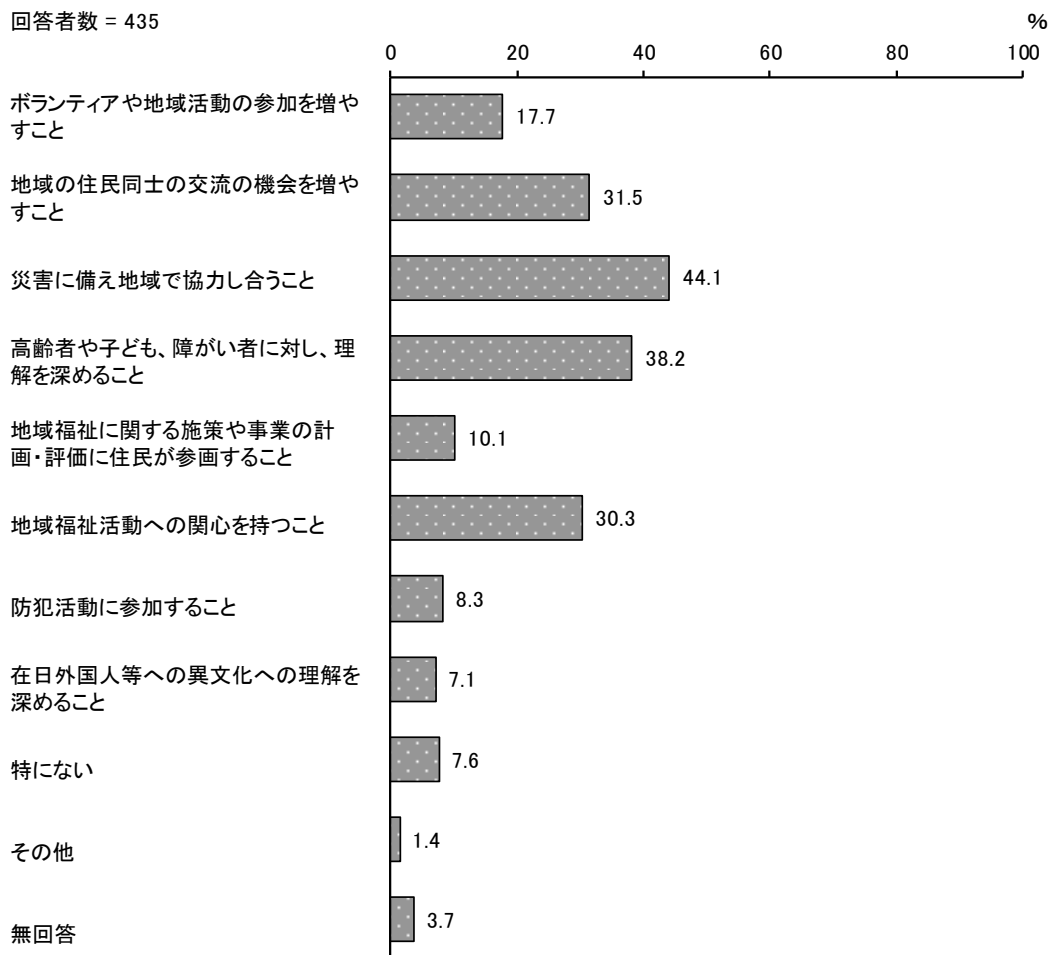
### 問 28 地域福祉への関心がありますか。【〇は3つまで】

「老老介護」の割合が 35.2%と最も高く、次いで「居場所づくり」の割合が 26.2%、「特にな  
い」の割合が 14.9%となっています。



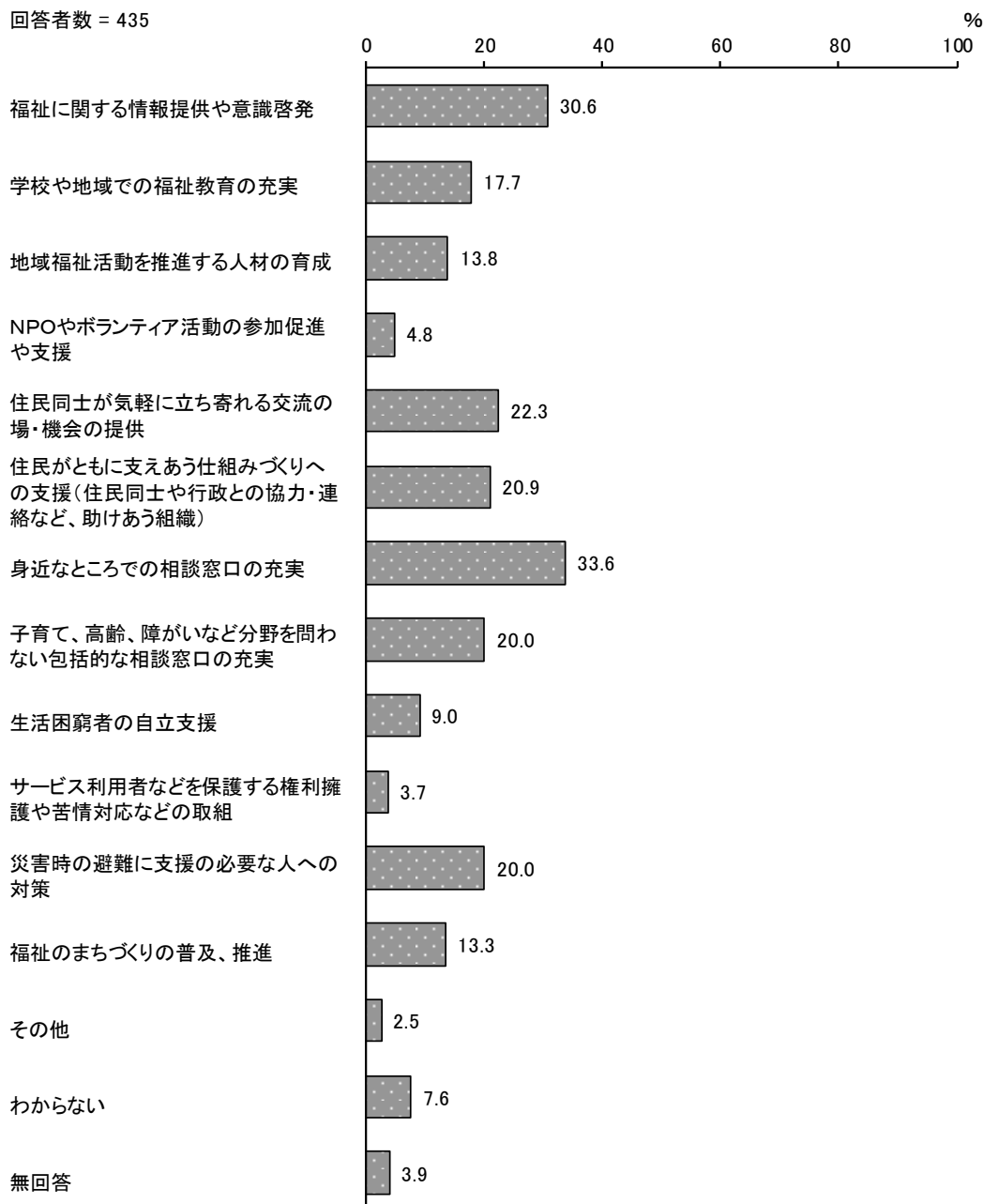
問 29 町民として取り組むべきことはどんなことだと思いますか。【〇は3つまで】

「災害に備え地域で協力し合うこと」の割合が 44.1%と最も高く、次いで「高齢者や子ども、障がい者に対し、理解を深めること」の割合が 38.2%、「地域の住民同士の交流の機会を増やすこと」の割合が 31.5%となっています。



問 30 今後、町が取り組むべき施策は、どれを優先して充実すべきだと思いますか。  
【〇は3つまで】

「身近なところでの相談窓口の充実」の割合が 33.6%と最も高く、次いで「福祉に関する情報提供や意識啓発」の割合が 30.6%、「住民同士が気軽に立ち寄れる交流の場・機会の提供」の割合が 22.3%となっています。



## 2 団体調査

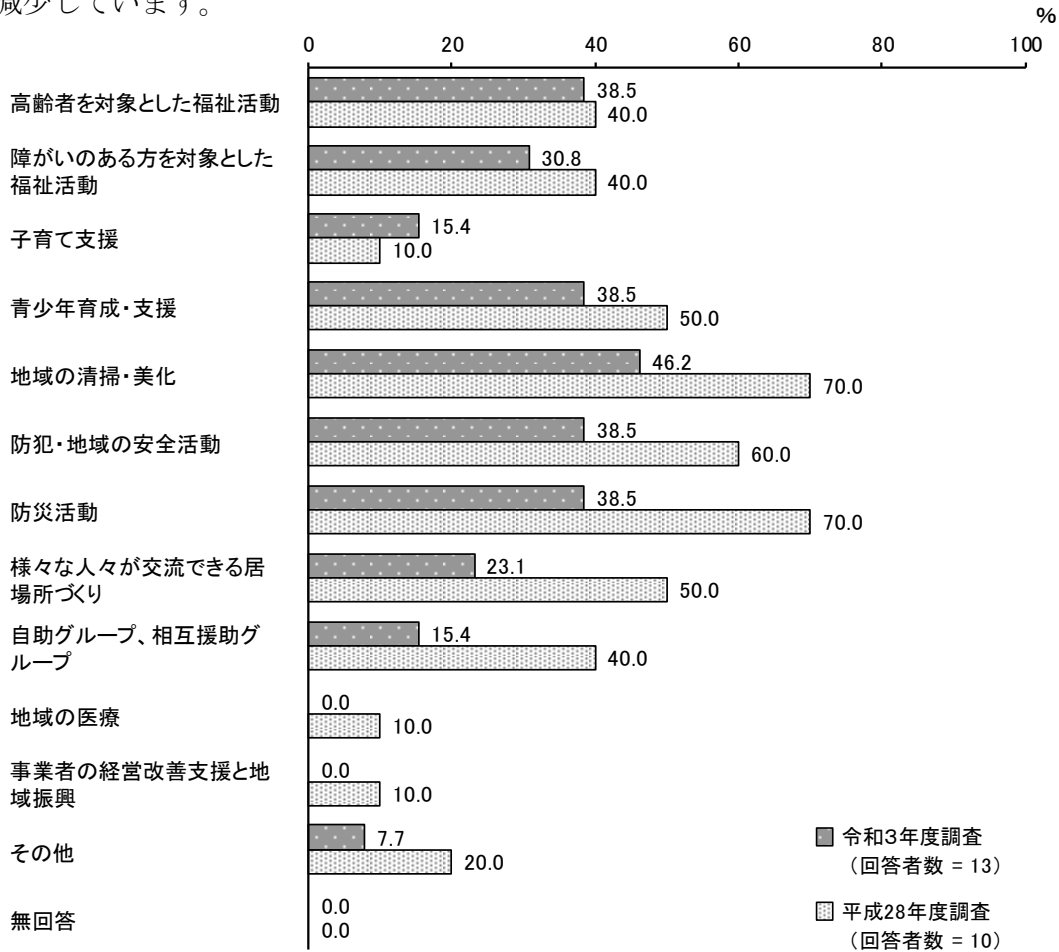
### (1) 日ごろの活動・業務について

問2 貴団体は、どのような活動・業務を行っていますか。

【あてはまるものすべてに○】

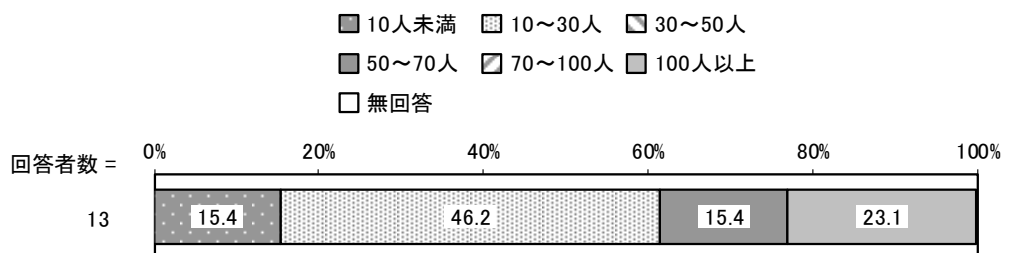
「地域の清掃・美化」の割合が46.2%と最も高く、次いで「高齢者を対象とした福祉活動」、「青少年育成・支援」、「防犯・地域の安全活動」の割合が38.5%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「子育て支援」の割合が増加しています。一方、「防災活動」の割合が減少しています。



問3 日ごろ活動・業務を行っている会員・メンバー等は何人ですか。※令和3年4月1日現在の人数でお答えください。【○は1つだけ】

「10～30人」の割合が46.2%と最も高く、次いで「100人以上」の割合が23.1%、「10人未満」、「50～70人」の割合が15.4%となっています。

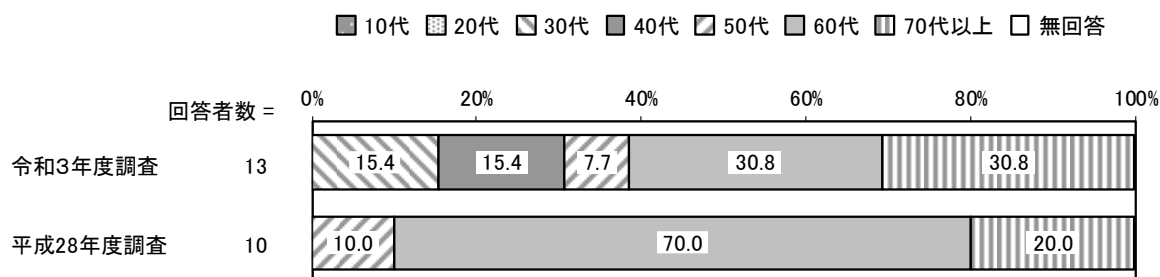


問4 日ごろ活動・業務を行っているメンバー・職員の年齢層は何歳代が中心ですか。「最も多い年代」と「次に多い年代」を次から選び、下の回答欄に数字を記入してください。

①最も多い年代

「60代」、「70代以上」の割合が30.8%と最も高く、次いで「30代」、「40代」の割合が15.4%となっています。

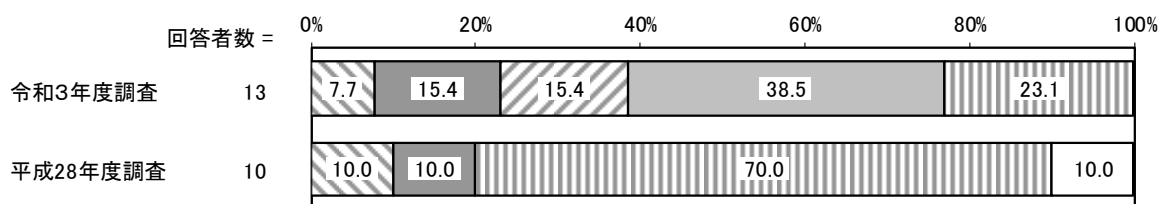
平成28年度調査と比較すると、「60代」の割合が減少しています。



②次に多い年代

「60代」の割合が38.5%と最も高く、次いで「70代以上」の割合が23.1%、「40代」、「50代」の割合が15.4%となっています。

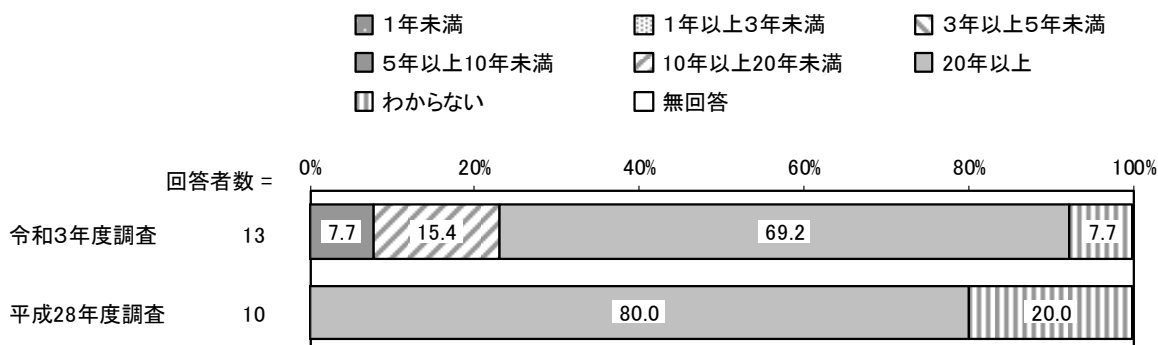
平成28年度調査と比較すると、「70代以上」の割合が減少しています。



問5 貴団体は、活動・業務を始めてからどれくらいになりますか。通算の年数でお答えください。【○は一つだけ】

「20年以上」の割合が69.2%と最も高く、次いで「10年以上20年未満」の割合が15.4%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「10年以上20年未満」の割合が増加しています。

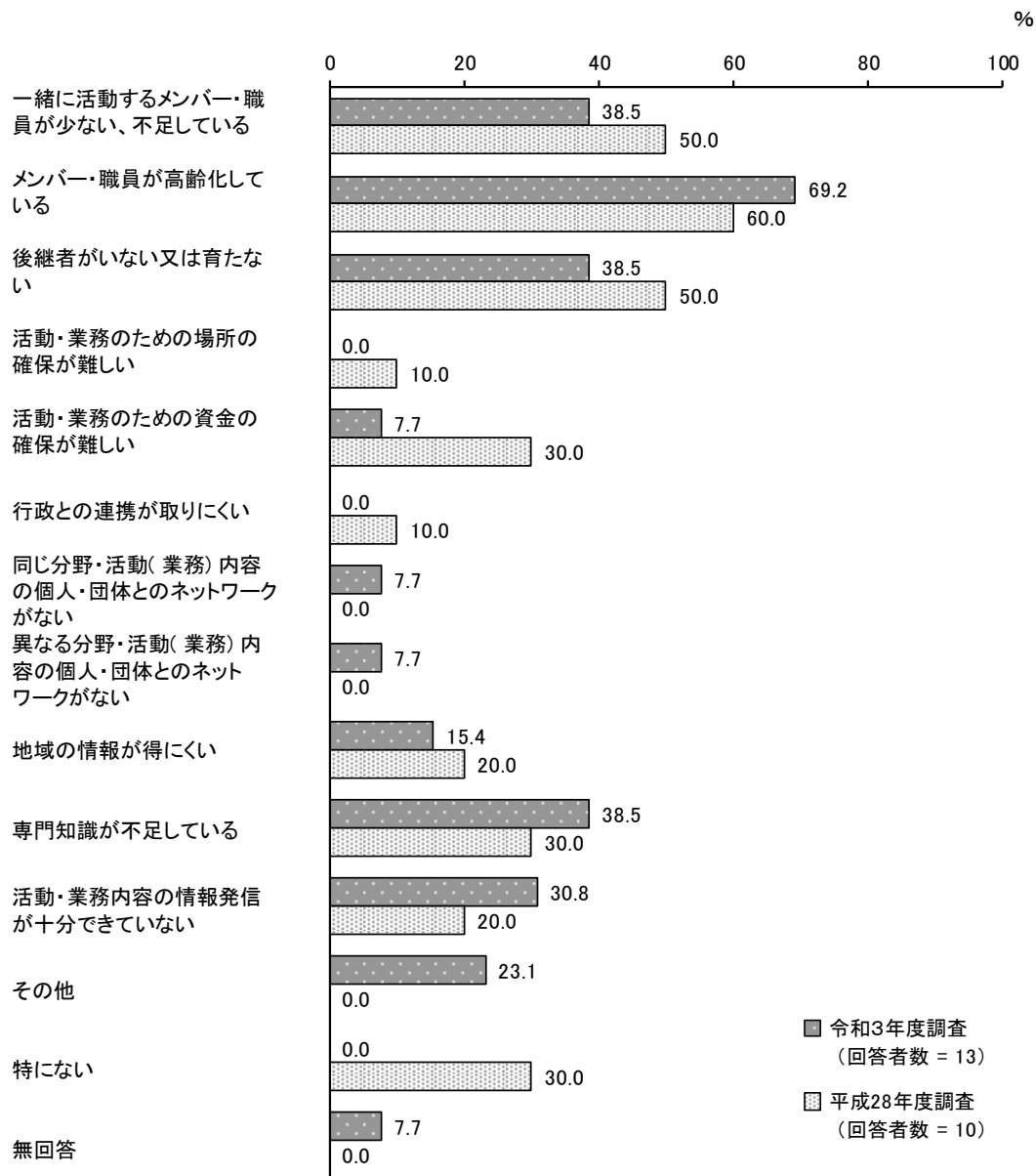




**問6 貴団体が、活動・業務を行う上での運営上の問題点・課題についてお答えください。【あてはまるものすべてに○】**

「メンバー・職員が高齢化している」の割合が69.2%と最も高く、次いで「一緒に活動するメンバー・職員が少ない、不足している」、「後継者がいない又は育たない」、「専門知識が不足している」の割合が38.5%となっています。

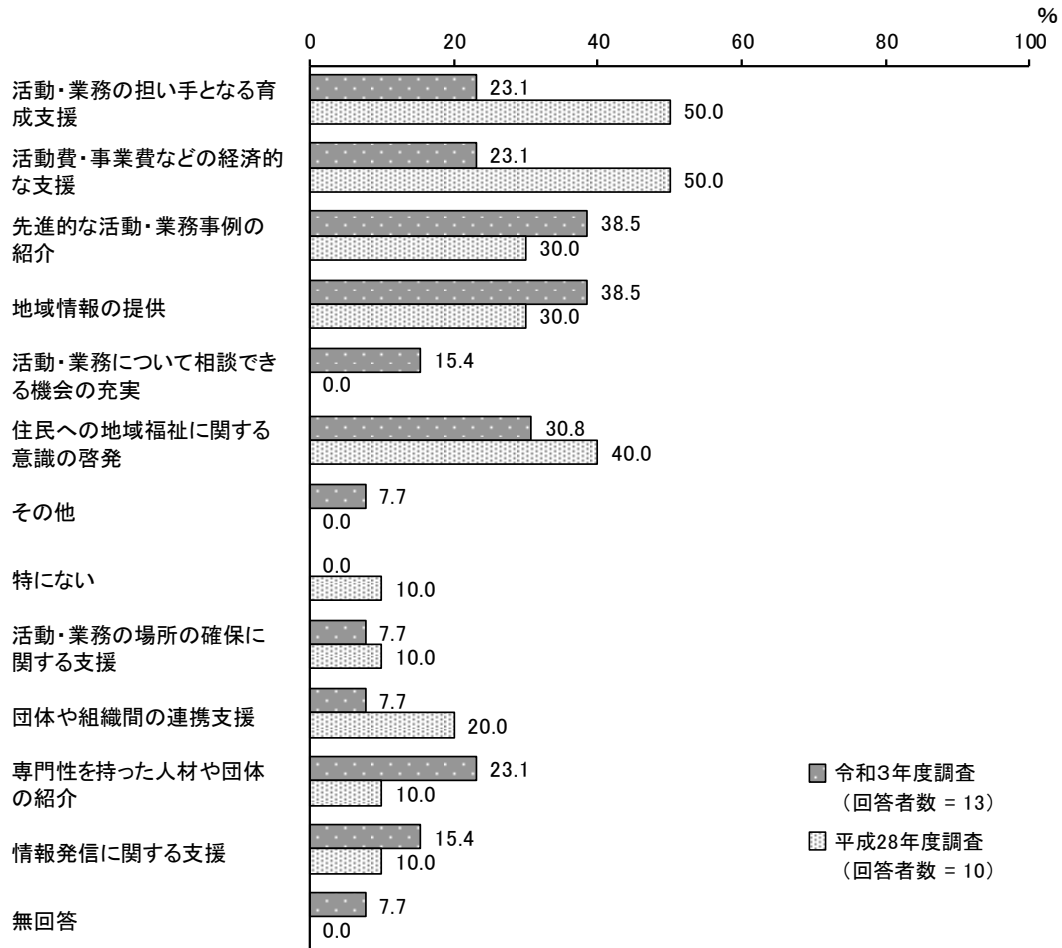
平成28年度調査と比較すると、「メンバー・職員が高齢化している」の割合が増加しています。一方、「活動・業務のための資金の確保が難しい」の割合が減少しています。



**問7 活動・業務を行う上で、行政にどのような支援を求めますか。【〇は3つまで】**

「先進的な活動・業務事例の紹介」、「地域情報の提供」の割合が38.5%と最も高く、次いで「住民への地域福祉に関する意識の啓発」の割合が30.8%となっています。

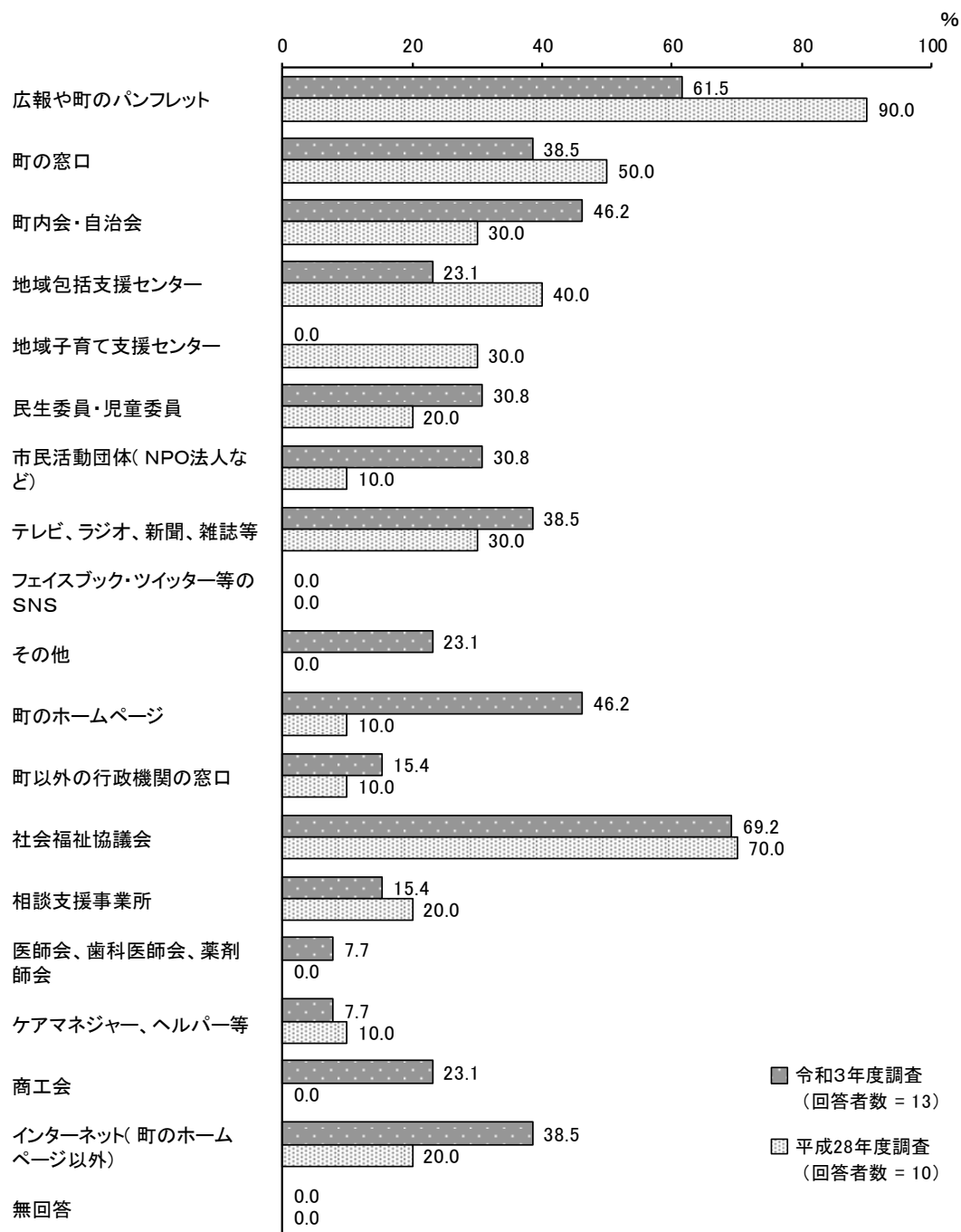
平成28年度調査と比較すると、「専門性を持った人材や団体の紹介」の割合が増加しています。一方、「活動・業務の担い手となる育成支援」「活動費・事業費などの経済的な支援」の割合が減少しています。



問 10 日ごろの活動・業務において、必要な情報をどこから入手していますか。【あてはまるものすべてに○】

「社会福祉協議会」の割合が69.2%と最も高く、次いで「広報や町のパンフレット」の割合が61.5%、「町内会・自治会」、「町のホームページ」の割合が46.2%となっています。

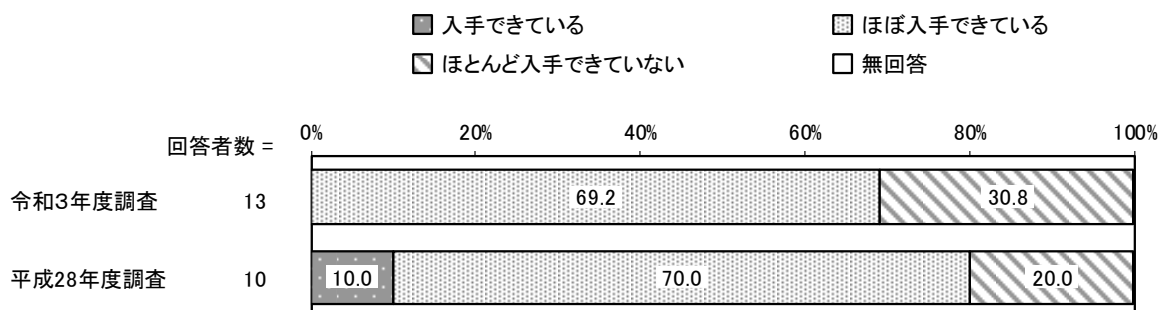
平成28年度調査と比較すると、「町のホームページ」の割合が増加しています。一方、「広報や町のパンフレット」の割合が減少しています。



**問 11 貴団体は、町の子ども、高齢者、障がいのある方などの福祉に関する情報を入手できていますか。【○は1つだけ】**

「ほぼ入手できている」の割合が 69.2%と最も高く、次いで「ほとんど入手できていない」の割合が 30.8%となっています。

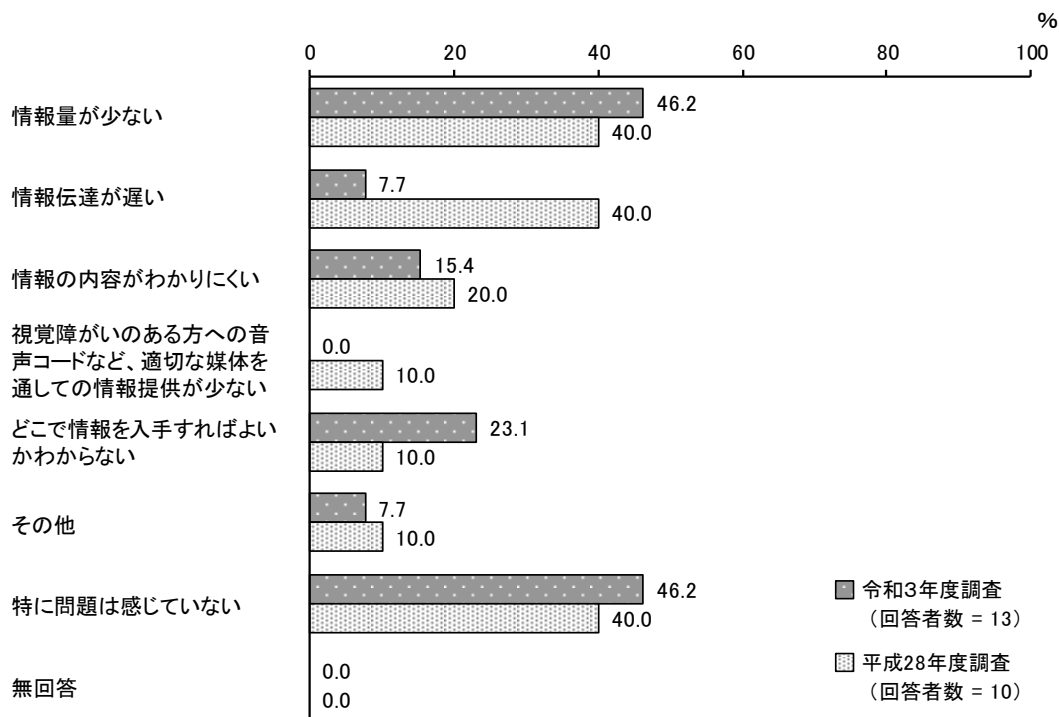
平成 28 年度調査と比較すると、「ほとんど入手できていない」の割合が増加しています。



**問 12 町からの情報について、どのように感じていますか。【あてはまるものすべてに○】**

「情報量が少ない」、「特に問題は感じていない」の割合が 46.2%と最も高く、次いで「どこで情報を入手すればよいかかわからない」の割合が 23.1%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「どこで情報を入手すればよいかかわからない」の割合が増加しています。一方、「情報伝達が遅い」の割合が減少しています。

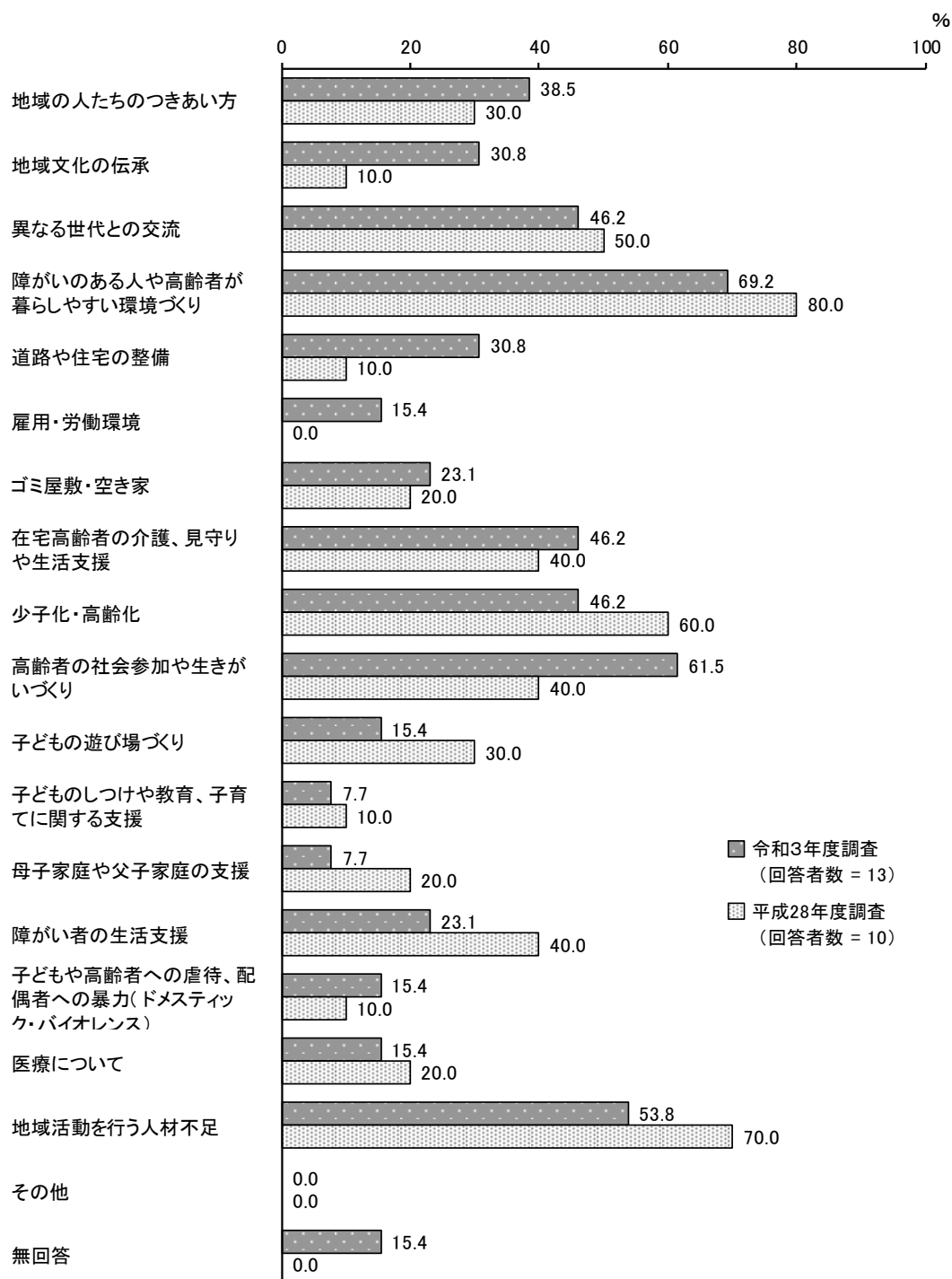


## (2) 地域の生活課題について

問 13 ふだんの活動・業務を通じて感じている地域の課題には、どのようなことがありますか。【あてはまるものすべてに○】

「障がいのある人や高齢者が暮らしやすい環境づくり」の割合が 69.2%と最も高く、次いで「高齢者の社会参加や生きがいがづくり」の割合が 61.5%、「地域活動を行う人材不足」の割合が 53.8%となっています。

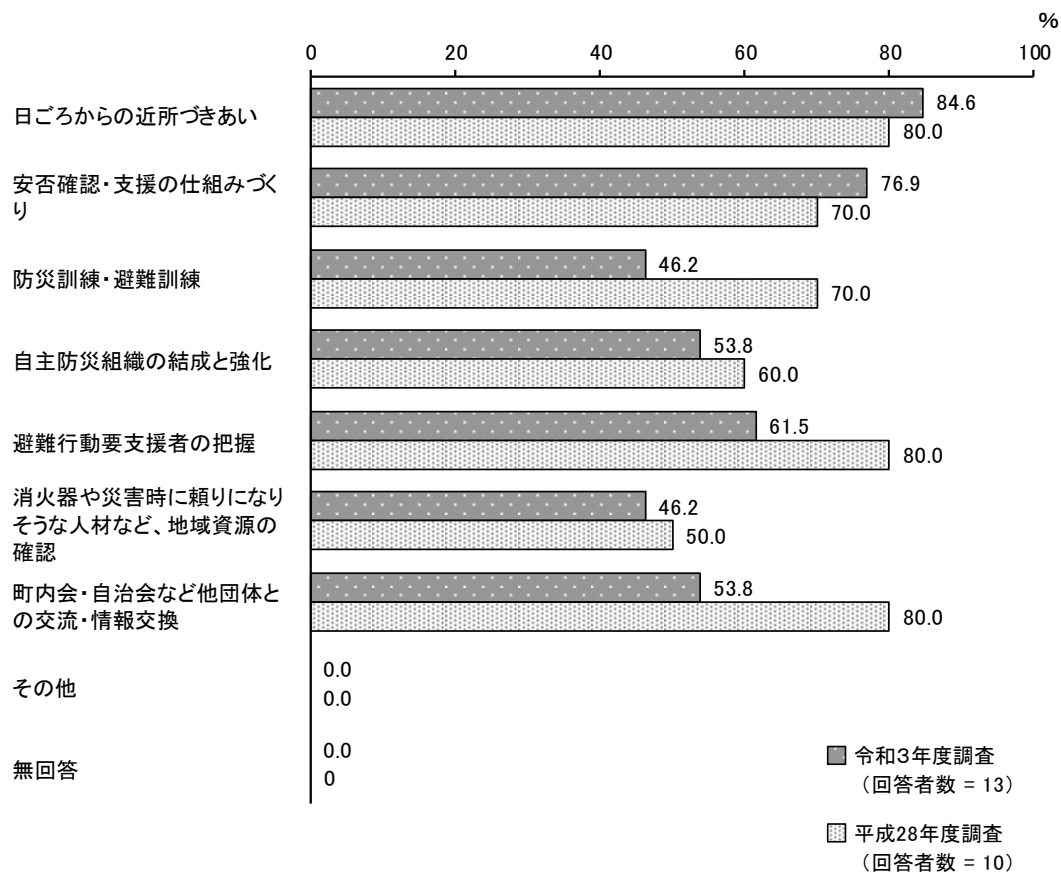
平成 28 年度調査と比較すると、「高齢者の社会参加や生きがいがづくり」の割合が増加しています。一方、「障がい者の生活支援」の割合が減少しています。



**問 14 災害時に支え合う地域づくりには、日ごろからどのような取組が必要だと思います【あてはまるものすべてに○】**

「日ごろからの近所づきあい」の割合が84.6%と最も高く、次いで「安否確認・支援の仕組みづくり」の割合が76.9%、「避難行動要支援者の把握」の割合が61.5%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「安否確認・支援の仕組みづくり」の割合が増加しています。一方、「町内会・自治会など他団体との交流・情報交換」の割合が減少しています。

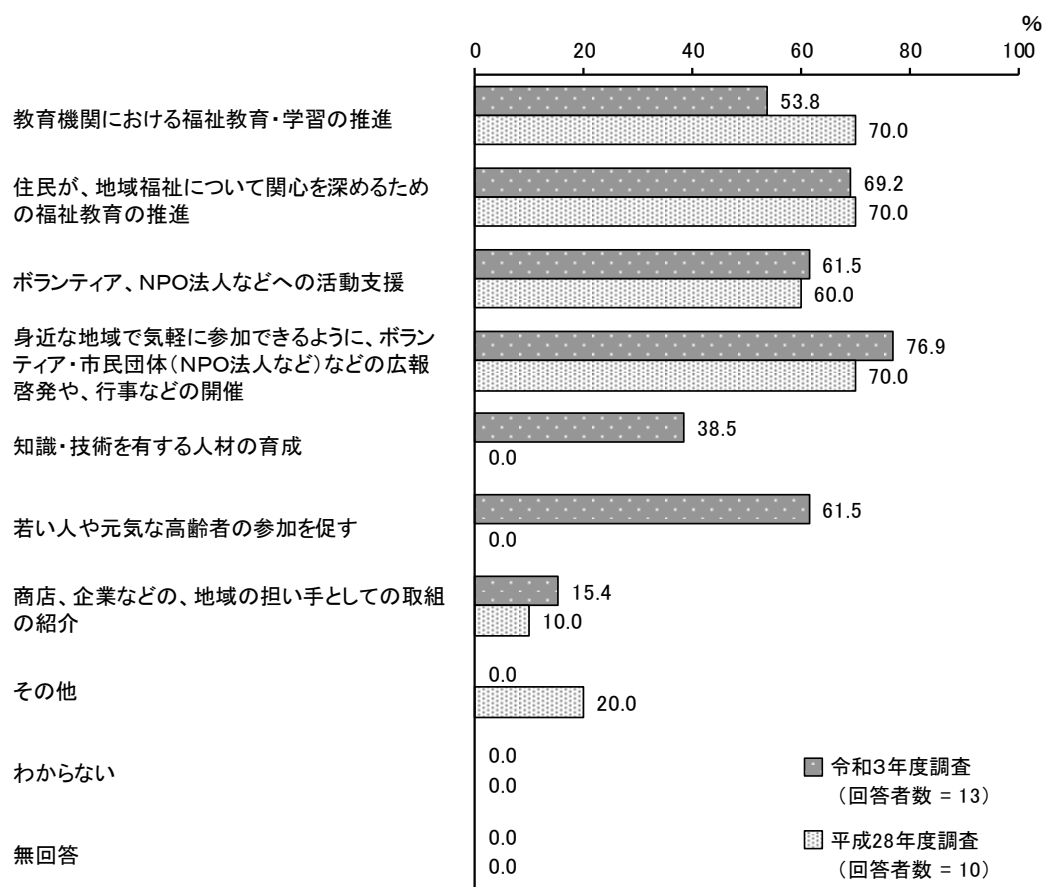


### (3) 町の地域福祉について

問 16 地域課題に取り組むための地域の担い手を増やすには、どのようにしたらよいとお考えですか。【あてはまるものすべてに○】

「身近な地域で気軽に参加できるように、ボランティア・市民団体（NPO法人など）などの広報啓発や、行事などの開催」の割合が76.9%と最も高く、次いで「住民が、地域福祉について関心を深めるための福祉教育の推進」の割合が69.2%、「ボランティア、NPO法人などへの活動支援」、「若い人や元気な高齢者の参加を促す」の割合が61.5%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「身近な地域で気軽に参加できるように、ボランティア・市民団体（NPO法人など）などの広報啓発や、行事などの開催」の割合が増加しています。一方、「教育機関における福祉教育・学習の推進」の割合が減少しています。



問 17 これからの吉田町の地域福祉は何を重点にすべきだと思いますか。  
【〇は3つまで】

「健康や生きがいづくりへの支援」の割合が 53.8%と最も高く、次いで「一人暮らし高齢者や認知症高齢者の見守り支援」、「住民がお互いに助け合い、地域課題を解決できる仕組みづくり」の割合が 46.2%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「一人暮らし高齢者や認知症高齢者の見守り支援」の割合が増加しています。一方、「子育て家庭への支援」の割合が減少しています。

